

338  
293

6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

始



14.9.22

e

1.15

318  
293



338-293



ア  
ミ  
ス  
の  
商  
人

坪内逍遙譯

大正  
3. 6. 17  
内交



*Edmund Kean as Shylock*

## 續言

「エニスの商人」は、早くば一千五百九十四年頃、晩くば一千五百九十八年頃の創作なるべし。其のはじめて刊行せられしは一千六百年にして四折本二種ありき。其最先に出でたるものゝ表題は下の如し。

エニスの商人の見事なる物語、残忍非道なる猶太人が件の商人の肉一ポンドを切取らんとする事と三種の匣の選擇によりてボオシヤ姫を手に入れんとする事とを大筋とす。ウイリヤム・シエークスピア作。ジェ  
I. ロバート刊行。一六〇〇年。

作者の死後、更に二種の四折本出でたり、其の一は一千六百三十七年にして、其の二は一千六百五十二年なりき、何れも一千六百年本(第二の四折本)の再版たるに外ならざるものなり。

此作の骨子となれる二種の話(人肉抵當の話と三種の匣の話)は、多少形式を異にして、古くより歐洲列國間に傳唱せられたりしものなり、殊に人肉抵當譚の如きは、古き東洋傳説の變形なるが如し。而して此話の英國に傳はりしは十三世紀の末なるべく、其中最も有名なりし

は伊のジョーヴニ・フィオレンチノの物語集 *Pecorone* 中に見えたる「ジャンネットの浮沈物語」なり。アドエンチユニアス 下に掲げたる粗筋だけによりても沙翁の作が之に負ふ所の少小ならざることとは明かならん。

伊太利フロレンス市の豪家ビンドーの子にジャンネットといふ青年あり、父の死後、エニスエニスの富商アンサルドーといふ慈悲深き名附親に後見せられて、安樂に生活せしが、ふと其友人等に勧められてアレキサンドリヤへ航行せんことを思ひ立ち、義父アンサルドーの許可を乞ふ。アンサルドー快く之

を許して、彼れの爲に貨物を満載せる一商船を供給す。かくて直ちに帆出せしが、其航海の途上、出来心にて友人等の目をぬき、獨り窈にベルモント附近の港に上陸し、其地の有名なる美人の寡婦を訪問す。此寡婦は、其甚だ美なると己に屢求婚者を破産せしめたるを以て有名なり。ジャンネットの寡婦を訪ふや婦は盛會を開いて款待にあらざるなく、十二分の媚を呈す。はじめ約すらく、今宵妾君を寢房に迎ふべし、君妾を得給はば、妾は永く君の妻となりて家をも領土をも君に献せん、併しながら君もし今宵のうちに妾を得る能はずんば、君の携へ

有てる財貨は悉く妾が有たらん。云々。ジャンネットは此の契約を諾して盛會に列し、やがて寢に就かんとする時、侍女等の薦むる美酒を飲みしに、忽ち昏睡して夜の明くるを知らず。契約なれば止むことを得ずして船をも貨物をも悉く彼の寡婦に與へ、悄然としてエニスに歸る。併しながら恥ぢてアンサルドーには故と歸國を報せざりしが、彼れ傳へ聞きて來り訪ひ、失ひし船や貨物の事は決して懸念するに及ばずと慰め、友人等も集ひ來りて懇に勞り勵ます。さもあれジャンネットの心は只管彼の寡婦を忘るゝ能はずして、彼れと嫁するを得ずんば生け

るも甲斐なしと悶え歎く。アンサルドー憫みて更に第二の商船と貨物とを供給す。ジャンネトー勇み喜びて再び航海の途に上り、再びベルモントに赴きしが、又もや寡婦の計略にかゝりて、前と同じ手續にて船をも貨物をも失ひて歸國す。かくて彼れが恥ぢ悲みて、深き憂愁に沈めるを、アンサルドーは懇に諫め勵まし、更に第三の商船を供給せり、されど流石の豪商も今は其餘財乏しく、高價なる貨物を満載するためには、是非なく一萬ダケットの金額をさる猶太人より借入れざるを得ざりき。すなはち翌六月の聖者ジョンの祭日までに返金せざる時は、猶太人はアン

サルドーの肉一ポンドを彼れが身體の如何なる局部よりなりとも自由に切取るを得べき契約なりき。さてジャンネトーの第三回の冒険は、寡婦の侍女中に彼れを憐みて計略の秘密を内通せし者ありしたために、首尾よく成功せり。彼れは催眠薬を調合せる美酒を巧みに飲む振をして懷中に傾け盡し、難なく狡慧なる寡婦を取拉ぎ、直ちに盛んなる結婚式を舉行し、其地方の領主となりぬ。かくて民衆に敬愛せられて樂しき幾月かを夢の如くに経過し、恩人アンサルドーの事も猶太人との契約の事も悉く忘れをりしが、一日夥しき群衆が手にく炬火を持



ちて街頭を練り行くを見て、何事かと問ひ、其日は聖者  
ジョンの祭日なる故市民が供へ物を會堂になすなりと聞  
きて大いに驚き、恩人の身に危急の迫れるを思ひ出し、  
斯くと其妻に告ぐ。妻も駭きて、急ぎ中を飛びてエニス  
に歸りたまへと夫に勸めて、十萬ダケットを携へ行かしむ。  
かくして婦人みづからも法律學者の姿に變装して、二  
人の家僕と共に、夫の後を追ひてエニスに赴き、さる旅館  
に投宿し、家僕をしてポロンニヤの若き法學家なりと名乗らし  
む。とかくする間に猶太人は、ジャンネットーが十萬ダケット  
にして返濟せんといへるをも斥けて、あくまでもアンサル

ドーの肉を得んと主張す。此事市内の大評判となりて、  
旅館の主人之を其客なるジャンネットー夫人に語る。夫人は  
「そはいと容易く解決せらるべき事件なるに」といひて、如  
何なる困難なる訴訟をも裁決するに妙を得たる名高き  
法學家のポロンニヤより來泊せる由を言ひ觸らさしむ。ジャ  
ンネットーも猶太人も、共に此の法律家に裁決を頼むこと  
に合意す。ジャンネットー夫人は、劇のポオシャに同じく、猶太人  
が契約の法律上正當なるを認めながら、ジャンネットーの申  
請を容れてアンサルドーを赦せと猶太人を説諭す。猶太人  
頑として聽かず、その結果アンサルドーは遂に裸體にせら

れ、猶太人は剃刀を取りて立ちかゝり、いよ／＼刑の執行に著手せんとし、ジャンネッソーは身も世もあらぬばかりに苦悶す。僞法學家は之を制し、猶太人が恰も剃刀を揮はんとする途端に、「肉を切取るは汝の自由なれども、血は一滴たりとも取るを許さず、若し誤つて血を流さば、汝を死刑に處せん」といふ。これより大争論ありて、猶太人は遂に一萬ダケットだけを受取らんといふ。僞法學家曰く「汝は證書面の契約以外を取るべからず、然らざれば該證書は無効のものたるべし」と。席に列れる衆人皆大いに喜び、猶太人を罵りて「おのが仕掛けたる係<sup>ワナ</sup>に懸

れり」と嘲笑す。猶太人怒りて證書を裂く。かくてアンサルドーは放免せられ、ジャンネッソーは喜悅の餘り、僞法學家に十萬ダケットを贈らんとす。法學家は之を斥けて、「それは寧ろ保留して、そのまゝ、夫人の許へ持歸り、故なく浪費せりなど言はれざるやうにせらるべし」といふ。それより二人の間に一場の小喜劇的問答ありて後、僞法學家は強ひてジャンネッソーの指輪を乞ひ受けて去る。其指輪は夫人の記念として贈りし品なるがゆゑ、ジャンネッソーは大いに困却す。さて夫人は急ぎてベルモントの自邸に歸りて、盛大なる歓迎の準備をなし、夫に伴はれ來るアンサ

ルドーを迎へたり、されど夫に對してはわざと甚だ冷淡にもてなし、ジャンネトーが切に會見を求むるに及びて、忽ち其指輪の失はれしことを見咎め、夫が事實通りを辯解するを聞きて、わざと信せざる體を装ひ、ゼニス的情婦などに與へたるに相違なしと嚴責す。ジャンネトーは語塞りて涕泣す、夫人走りよりて抱擁し、大いに笑ひて、彼の指輪を示し、一切の事情を告白す。云々。

人肉抵當の話柄の、當時の英國に流布したるもの尙他にもあれど、沙翁が主として據れるものは右の物語なる

べし。

「三種の匣」の話の中にて、本劇に取入れられたるに最も近きものは、有名なる「ゲスタ・ロマノラム」といふ伊太利小説集中の一話なるが如し。其話は、羅馬のアンセルムといふ帝が、天下の和平の爲に、アムプロイ王の女を迎へて其子に妻せんとするに始まりて、王女が航海中の厄難の事、身を以てまぬがれて帝に面謁の事、帝が王女の心術を試さんとして、金、銀、鉛の三種の匣におのゝ銘を刻したるものを示し、自他に有利なるものを收めたる匣を選

び中でなば我子との婚を許さん、然らざれば許さじと嚴命する事に及ぶ。この三種の匣のうち、金の匣は、外部は珠玉を鏤め、内部には骸骨を收め、「吾を選ぶ者は其の身に相當せるものを得む」と刻したり。銀の匣には、内にと蛆蟲とを收めて、「吾を選ぶ者は其の性の好むものを得む」と銘し、鉛の匣には、財寶を藏めて、「吾を選ぶ者は神明の定めに従はんのみ」と刻したり。王女心に神を祈りて、外見の最も醜き鉛の匣を開きしに、内には黄金と珠玉とが充滿せり。帝深く王女の心がけを嘉して皇子との婚を許しぬ。云々。

これと同根の傳説は英の詩人ガワアの「コンフエッショ・アマンチス」の中にもあり、又伊のボカッチオの「旬日物語」の中(第十日の第一話)にも見えたり。されど沙翁が主として参照せしは、多分上に録したるものならんといふ。

或は、以上の二傳説を本劇に於けるが如く結び合せて劇とせるもの、沙翁の作以前に有りきといふ説をなすものあり。其作者はスチーブン・ゴッスンといふ者なりしが、作は今傳はらず、沙翁の作は、疑ふらくは之を補修せるも

のならんかとして、多少の臆説を立つる者もあれど、證左薄弱にして信を置くに足らず。眞にさる作有りきとするも、此作出でて後、悉く其の餘照をすら抹し去られたるに徴すれば、恐らく甚しく劣りたる作なりしならん。彼の完本の「ハムレット」を以て所謂第一稿の「ハムレット」に對すれば後者は殆ど取るに足らざる作なるが、其第一稿さへも所謂原本の「ハムレット」をして其存在を失はしむるに足りしことを思へば、沙翁以前の作にして今日に傳はらざるものゝ如きは、敢て言ふに足らざるべし。

此作は、沙翁が喜劇中に在りて、最も廣く人口に膾炙し、且つ常に舞臺上に成功して、廣く内外に歡迎せらるゝ者なれば、其劇詩としての特質及び其實演劇としての價值に關しては、今改めて贅するに及ばず。只聊か言ふべきは、此作が沙翁の第一、期喜劇中の傑作たるを、其未だ實人生の重き悲劇的壓迫の爲に心の僻せざりし頃の作なるが故に、裏面には幾分の苦味ニガミを包みながら、尙十分に快活にして喜劇の本領を發揮し得たると、及び極めて不自然なる傳説を殆ど其儘に取り入れて脚色を設けながら、事件の發展と人物の性格描寫との上には、例の

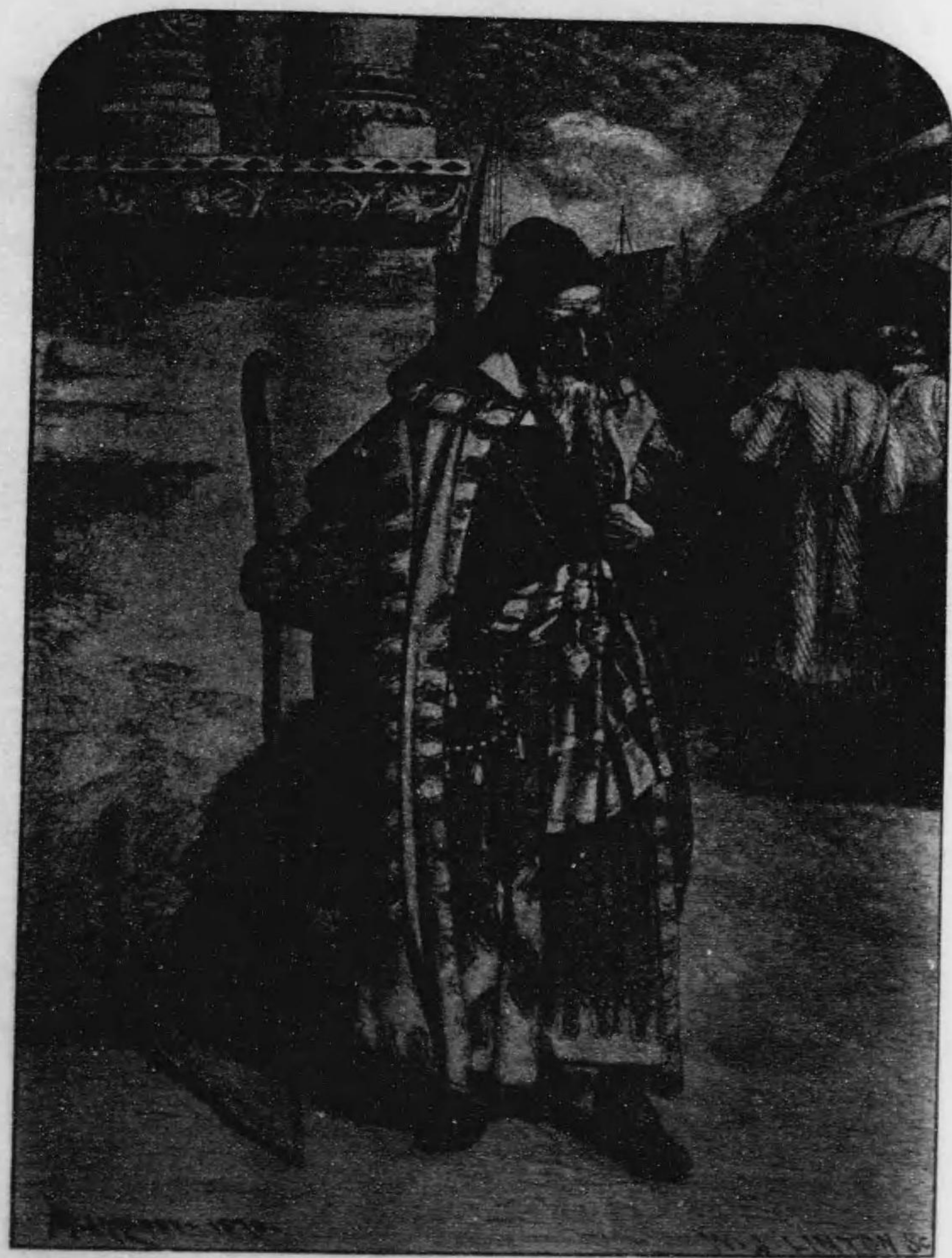
虚と實との皮膜の間を行く技倆をほしいまゝにして、巧みに韻語と散文と、詩と俗談と、夢幻と現實とを按排し、知らずくの間自然と不自然との繋ぎ目を暈し盡し、少くとも之を名優が演ずる舞臺面に観る瞬間に於ては、殆ど些少の破綻をだに心附かざらしむべしと思はしむるやうに作り做せることは是れなり。蓋し全篇を讀過して仔細に檢すれば、此劇の骨子となれる事件は悉く不自然を極め、今日の心を以てしては之をお伽話視するの外なきなり。人肉抵當の事はいふも更なり、三種の匣の件の如きも、人情に悖り、道理に背けり。まし

て彼の法律博士に假裝したる戀女房のポオシヤと其書記に扮したるネリッサとを、パッサニオもグレシヤノも共に聊かも心附かざるなどは、昔話式としてだに思ひ切つて甘き作意なること、今更辯するを須ひざるべし。併しながら不自然、不道理と感せらるゝは、主として此等數箇條にして、個々の人物の性格的描寫に至りては、概して驚くべく寫實的なり。こは現代語に譯するに及びて、特に予の心附きたる點なり。但し予が譯拙ければ、恐らく讀者をして予が感じたる點に同感せしむること難からんか。然らば原詞につきて玩味せらるべし、沙翁は死して既

に三百年なれども、此劇に現はるゝ男女の人物は、今尙宛然<sup>マダカ</sup>活ける如く、否、殆ど吾々と時を同うして生息せる者の如くに、極めて鮮かに、且つ自然に言動せるなり。骨子の不自然を度外にして視れば、他は悉く自然にして現實なり。予は今にして新に沙翁劇の永久なるべきの理を覺りたり。

大正三年五月下旬

譯者



*Edwin Booth as Shylock*



登場人名

デニスの公爵。

モロッコの君

アラゴンの君

ポオシヤ姫の求婚者。

アントニオ、デニスの商人。

九 バッサニオ、其友にしてポオシヤの求婚者。

ソラニオ

登場人名

サラリノ

エニスエニスの紳士にしてアントニオ、バッサニオの友達。

グレシヤノ

ロレンゾ、ジェシカの情人。

シャイロツク、富有なる猶太人にしてジェシカの父。

チューバル、猶人にしてシャイロツクの友。

ランスロット・ゴッポー、道化方にしてシャイロツクの僕。

老ゴッポー、ランスロットの父。

レオナード、バッサニオの家來。

バルサマー

ポオシヤ姫の家來。

ステファノ

ポオシヤ、富有なる若き女主人。

ネリツサ、其侍女。

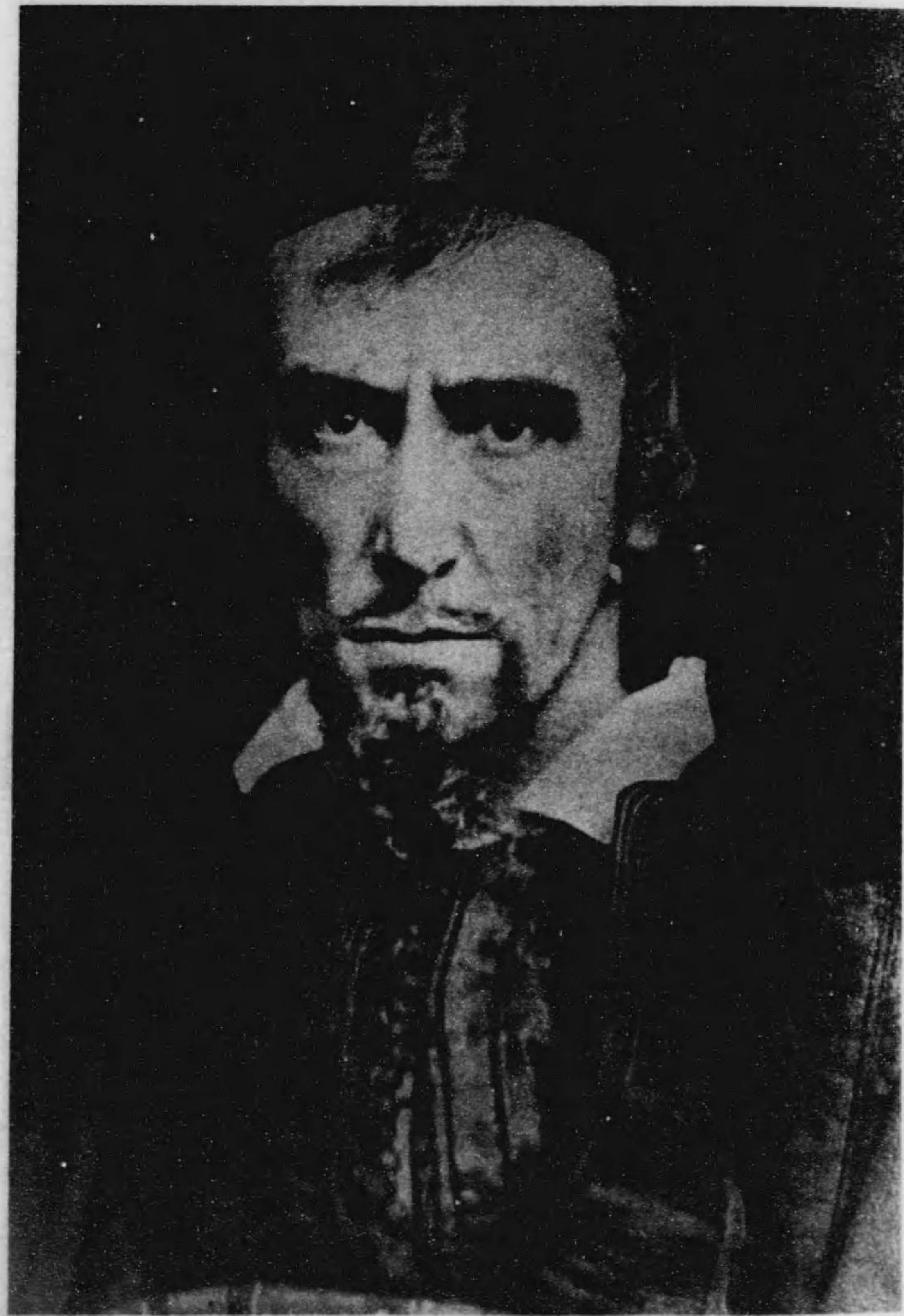
ジェシカ、シャイロツクの女。

エニスエニスの貴族等、法廷の諸官吏、監守、ポオシヤの家來等  
及び其他の侍者等。

登場人名

場所。

一半は**ゼニス**にて、一半はポオシヤ姫の居所たる**ベルモント**にて。



*Henry Irving as Shylock*



# エニスの商人

## 第二幕

### 第一場 エニス。街上。

アントニオ、サラリノ井にソラニオ出る。

アント  
實際自分にも、何故斯う鬱ぐか、解らない。君たちはそれが爲に鬱々する  
といふが、自分にも鬱々する。一體どうして斯うなつたのやら、何處で拾  
つて來たのやら、どうして取附かれたのやら、何が種で、何から生れたのや

ら予にも解らない。それでつい腑抜のやうになつて、これは自分ぢやあ  
ないのかと思ふ位です。

サラリ

貴下はきつと大洋の事が氣になつて、心が動揺してゐるんです。ねえ、今頃  
は貴下の商船が、めい／＼立派な帆を張へて、御領主か持丸長者か、乃至  
は海山鋒で、やもあるかのやうに、恐れ入つて、へたこらお辭儀をする餘  
所の小船共を目下に見て、浪の上を翼を擴げて突走つてゐませうからね。

ソラニ

ほんとに、わたしが貴下なら、其船の事が氣になつて、魂の七分がたは始  
終海原をうろついてゐるに相違ない。風向を知るために、草の頭を押立  
て、見たり、港は何處だ、船附は、海路はと海の圖と首つ引をして、かりに  
も難船を氣附かはせるやうなことがあれば、大樽ぎに樽ぎ込むに相違あり  
ません。

サラリ

雑水の熱いやつを吹くにつけても、若しも海で斯ういふ颯風がやつて來た

らと思ふと、わたしなら忽ち瘡にとつゝかれます。砂時計の砂の走るの

を見ても、洲や淺瀬を思ひ出して、若しや貨物を満載したアンドリュウ號が、

今頃砂の中にゐすわつて、己が墓場をキッスでもするかのやうに、大帆柱を

横つ倒しにしてゐやあしないかと心配しないぢやゐられません。教會堂

へ往つて有難い石の伽藍を拜むにつけても、すぐ思ひ出すのは怖い暗礁、

きやしやな船の横つ腹にそいつが一寸でも觸るが最期、香料類は浪の上

へ撒散らされる、絹も綾も鳴渡る海の被ひ物になつてしまふ。つまり斯

う言つてゐる口の下に、如是にある財産が、まるで全滅になつてしまふん

です。さう思つた日にや樽がない譯にはいきませんよ。おつしやらん

でも解つてゐますよ。アントニオ、貴下は船貨の事を心配してゐらつし

やるに相違ない。

アント  
いゝえ、決してさうでない。仕合せな事には、わたしの店の損得は一艘の

船や一ヶ所の取引先に任してはない。又今年の運命がわたしの収入の全部でもない。だから船賃の事で心配はしません。

サラリ はてね、ちやあ戀わづらひですかね？

アント 馬鹿なことを！

サラリ 戀わづらひでもない？ ちやあつまり愉快でないからして鬱いでゐらつしやるといふ譯ですね、それなら笑つて跳廻つて、あゝ愉快だとおつしやることも出来さうなものです、鬱いぢやゐないといふ事になれば。ねえ、實際造化の神さまは、昔から、随分奇妙な人間を拵へるものですよ、常住覗いてるやうな細つこい目附をして、囊笛の音を聞いても、鸚鵡のやうにげら／＼笑ひ出す手合があるかと思ふと、こいつは堪らんと、如何な苦蟲も可笑がるやうな戯談を聴いても、白い齒一つ見せない變人もある。……

パッサニオ、ロレンゾ 敢にグレシヤノ出る。

ソラニ あそこへ御親戚のパッサニオさんが見えた、それからグレシヤノも、ロレン

ゾも。さやうなら。上等の御連中の方へ貴下を引渡します。

サラリ 貴下の御機嫌がなほるまでは、こゝにゐる積りでしたが、立派な御友人連が見えたから、わたくしはお暇しませう。

アント 君がたこそ大切な友人です。あゝ、こりや何か用があるので、好い機にして外すのですね。

サラリ (パッサニオ等に行逢ひて) 諸君、今日は。

パッサ やあ兩君、何時笑はうね？ え、何時？ 非常に御疎濶だね。もう歸るの？

サラリ いづれ御都合のよい時分に伺ひませう。

サラリノとソラニオと入る。

ロレン パッサニオさま、首尾よくアントニオさんにお逢ひになりましたから、わたくし共はお別れにいたしますが、どうぞ晝食時に會合する場所をお忘れ下

さいますすな。

バツサ

大丈夫。

グレシ

アントニオさん、どうも貴下の顔色がわるいよ。貴下は世の中の事を気にし過ぎる。あんまり苦勞して世の中を手に入れたのちや得にはなりませんよ。實際貴下は怖しく變りましたぜ。

アント

グレシヤノ、わたしは世の中を只當り前に見てゐる。めい／＼が何か一役づゝ演じなければならぬ舞臺だと思つてゐる。さうしてわたしの役は樽ぎ役なのだ。

グレシ

わたしは道化役だ。年を取つて皺くちやになつちまふまでも、陽氣に笑つて暮したいね、うん／＼呻吟つて血を減らして、心の臓を冷くしつちまふよりやあ酒を飲んで肝の臓を熱らしてゐたいね。温かい血が通つてゐる癖に、祖父さんの大理石像のやうな面附をする必要はないぢやありませんか？

せんか？ 覺きてゐながら睡てゐるやうな目附をしたり、むしやくしや腹

が因で黄疽になつたりする必要はないぢやありませんか？ ねえ、アント

ニオ君、僕は貴下を愛敬してゐる、愛敬してゐるから言ふのですが

世間に一種の人間があります、上部を薄膜で張詰めて、淀んだ水よろし

くといふ面附をして、賢明さうだとか、威嚴があるとか、思慮が深さうだとか

言はれたい爲に、じつと沈黙つて「わしは大豫言者でござる、わしが口を

開く時分には犬共吠るな！」といひさうにしてゐる奴がある。ねえ、ア

ントニオ君、僕はさういふ奴等を知つてゐる、何にも言はないから賢明だ

らうと思はれてゐる奴等だ、が、無論口をきかせた日にや、それを聞いた者

は堪へかねて、同胞の悪口をすれば地獄へ墮ちると知つてゐながら「馬鹿」

と罵らざるを得ない位のもです。此事については尙別に言ふがね、と

にかく、樽ぎの蟲なんかを餌にして世評といふ愚沙魚を釣るのはおよしな





さいよ。……さ、ロレンゾ。……さやうなら  
暫時。僕の諫言の結末は、何れ晝食後に  
つけませう。

ロレン  
ではわたしはお晝食時までお別れにい  
たします。わたしは今お話の、口をきか  
ない賢明な人になつちまひます、グレシヤ  
ノさんがわたしにや物を言はせませんか  
らね。

グレシ  
さあ、もう二年僕と一しよにゐて見るがい  
よ、君は自分の聲を忘れてしまふせ。さ  
やうなら。

アント  
わたしも此お庇でおひく多辯家になり

ませうよ。

グレシ  
ありがたう。物を言はんで好いものは、乾した牛の舌と素人の娘は  
かりです。

グレシヤノとロレンゾと入る。

アント  
何をいつてるのか!

バッサ  
あの男は常住たはいもないことばかり言つてゐる、無駄口にかけてはエ  
ニスちうで第一等です。奴の道理といつては二斗の糲に混つてゐる小麦  
二粒位の割合です、それで其二粒を探し出さうとすると一日もかゝるが、  
探し出して見たところ、骨折だけの價値はありません。

アント  
時に、例の婦人の素性をお話しなさい、貴下が是非とも内々で参詣したい  
といふ其御神體の事をお話しなさい、けふは打明けるといふ約束ぢやあり  
ませんか?

バツサ

アントニオ、わたしは、貴下が御存じの通り、少々身分不相應な端手な生活をしたために、すっかり財産をなくしてしまつたのです、以後は無論甘んじて生活の度をすつと引下げてやつて行かうと思つてゐます。しかし一番氣になるのは、どうしたらわたしの贅澤過ぎた生活が拵へた大きな負債を、立派に済すことが出来るかといふことです。アントニオ、殊に貴下に負ふ所が多い、金銭の上でも、情誼の上でも。それでわたしは、貴下の深切を信ずるからして、敢て何もかも打明けれるんです、負債消却に關するわたしの一切の計畫をも目的をも打明けれるんです。

アント

バツサニオさん、どうか打明けて話して下さい。若しそれが、貴下のする事はいつもさうだが、不名譽でない事である以上、わたしの財布も、わたしの一身も、わたしの力の及ぶ限り、必ず貴下の御用に立てます。

バツサ

小學校へ通つてゐた頃、箭をなくすることがあると、それを探し出すため

アント

に、同じ方角へ同じ射心の箭を前よりも注意して射つて見た、さうして二本冒險したために却つて二本ながら取返したこともありました。こんな子供の時の經驗をお話するのは、畢竟これから申さうとする事は全く小兒の考に類してゐるからです。わたしは貴下に負ふ所莫大である、然るに軽忽な少年らしくも、それを悉く失つてしまつたのです、併しながら若し貴下が第一の箭を射放しなすつた同じ方角へ、もう一本射放して下さるならば、わたしは大丈夫——今度はよく靦を附けますから——二本ながら拾つて来るか、さうでなくば後の冒險だけを持つて歸つて、第一のに對しては、厚く感謝の意を表して、負債者とならうと決心してゐます。

アント

貴下はわたしをよく知つてゐる癖に、持つて廻つて氣を引くやうなことをおつしやるのは、詰らん時間つぶしです。わたしが貴下の爲に全力を盡すのをお疑ひなさるのには、ありつたけのわたしの財産を浪費なさるよりも、

わたしに對する侮辱です。ですから、只どうすれば好いかをおつしやい、貴下がわたしの力で出来るとお思ひなされることをおつしやるがいゝ、何でもしませう。だから言つて御覽なさい。

パッサ

ベルモントに立派な遺産を有つてゐる一人の姫御察があるのです。さうしてそれは美人なのです、美人といふ語では言ひ盡されない程の美人であつて、驚くべき才徳をも具へてゐるのです。わたしは嘗て、無言の色よい通信を其眼から得たとがあります。名はポオシヤといつて、彼ケートーの女、ブルータスの妻のポオシヤに比べても、決して劣ることのない淑女です。早くから廣い世界に其評判が傳はつて、東西南北の風のまにまに、各所の海岸から有名な貴族や王族があこがれ寄るのです。姫の黄金色の縮髪は、彼の金毛の羊皮のやうに、顧顯の邊に垂れてゐるのです、ベルモントの姫の邸は取りも直さずコルコス濱の濱なのです、そこへ多勢の

ジェスンが姫を尋ねてやつて來るのです。おゝアントニオ、若しわたしに資力があつて、彼の手合と同等の競争者になられさへすれば、成功は大丈夫だと此心が豫言してゐるのです！

アント

貴下が知つてゐる通り、わたしの財産は悉く海に在るのです。即座の用に立つ正金もなければ、品物とてもない。だから、まあお出かけなさい。わたしの信用がエニスでどの位役に立つか、試みて見ませう。出来る限り無理をして、貴下をベルモントの其美しいポオシヤさんの處へお送りすることにしませう。さ、すぐに往つて、金を貸しさうな男を尋ねて御覽なさい、わたしも尋ねませう。信用で借りようと、友誼づくで借りようと、其邊はどちらでもいゝ。

二人ともに入る。

第二場 ベルモン。ポオシヤ邸の一室。

ポオシヤとネリッサと出る。

ホオシ  
ネリッサや、わたしの此小さい身體が、ほんとに、此大きな世界に壓々してしまつたのよ。

ネリッサ  
お姫さま、若し貴下のお不幸が御好運と五分々々で、お有り遊ばしたなら、さうおつしやるのも御道理でございませう、けれどもわたくしが考へますには、人は何にも食べないでゐても、飢えて病人になりますけれど、十分過ぎる程いたゞいても、やつぱり病氣になりますのね。ですから申位といふことは、決して中位の幸福どころぢやございませぬのよ。度を過す時は白髪を速く、程を守れば壽しでございますわね。

ホオシ  
好い格言ね、さうして言ひかたも巧いわ。

ネリッサ  
それをよく守れば尙ようございませう。

ホオシ  
さうね、訓を守るのが訓を知ると同様に容易しいことであれば、小さなお堂も忽ち大伽藍となり、賤が伏屋も忽ち金殿玉樓となるでせう、けれども自分の口にする訓誡を自分で守り得る僧官は、それは餘程すぐれた人です。爲すべき善い事を二十人に教へるのは容易しいけれど、それを守る二十人中の一人になるのはむづかしいことなの。智慧は情を制へるために種々の規則を工夫します、けども熱してゐる血氣は其冷い命令を跳越えてしまふの、若氣といふ狂氣兎は跛足の教訓が掛ける羅網なんか飛び越すのが定例よ。しかしこんな事を言つてゐたつて、夫を擇ぶための参考に何にもなりやしない。あゝ〜！「擇ぶ」といふ言葉！ わたしは好きな人を擇ぶことも出来なければ、厭だと思ふ人を拒むことも出来ない。

生ける女の意志は死せる父の遺旨でもつて制限されてゐるんだもの。ね、ネリッサ、つらからうぢやないかね、一人も擇ぶことが出来ず、一人も拒むことが出来ないといふのは？

ネリッサ たつといお方の御臨終のお思附は、必ず結構だと申します。お尊父様はおえらい方であらうしやいました、ですから金と銀と鉛の三つの匣を御覽じてお尊父様の御本意をお中て遊



ばすお方を御採用といふ方法でお婿さまにおなり遊ばすお方は、きつと貴下を眞實にお愛し遊ばすお方に相違ありませんのよ。それはさうと、今までにお出になつたお歴々の殿方のうちで、幾らかお氣に召しました方がお有りなさいますか？

ホオシ 名をいつて見とくれ。お前が名をいふとわたしが評をするからね、それで以てわたしの心をお察しよ。

ネリッサ 第一番に、ネーブルスのお殿さまは如何でございますの？

ホオシ さうね、あの人は全然馬よ。だつて馬の話をするより外は何にもしないんだもの。自身で馬に蹄鐵を穿かせることが出来るのを大層な才能でもあるやうに自慢するの。あの方のお母さんは、鍛冶工とわるいことをしてゐたのぢやないか知らん。

ネリッサ、その次はバラタインの伯爵さまです。

ホオシ

あの人は苦い面をするより外に藝はないの。「若しわたしがお氣に入らなければ、お勝手になさい」と言つてる人のやうによ。面白い話を聞けばからつて、莞爾ともしない。あの人は年を取ると、屹度泣蟲學者になるだらうと思ふわ、今の若さに、あゝ無作法に鬱ぎ込んでゐるんだもの。あんな人達は何方も眞平よ、あの人達と結婚する位なら骨を咬へてゐる鬮骸と夫婦になつたはうが優だわ。……神さま、どうぞあの二人からわたたくしをお護り下さいまし！

ネリッサ

佛蘭西の貴族さんのルボンさんを如何おぼしめしますり？

ホオシ

神さまがお拵へになつたのだから、人間と見做しておきませう。ほんとにわたし、人を嘲弄するのは罪悪だと思つてゐます、けどもあの人だけわね！ だつてあの人は馬にかけてはネーブルスさん以上だし、苦い面をする癖もバラタインさんよりずっと上手に悪だし、何一つ長所の無い癖

に誰れの悪い真似もする、鵜が囀れば浮れてケーバア踊をはじめ、自分の影法師と格闘をしかねない人なの。若しあの人と結婚するやうだと、二十人の夫を迎へるも同然よ。あの人、わたしを嫌へば恕してやりませうけれど、よしんば一生懸命にわたしをば愛したからつて、決して酬いてなにかやるものかね。

ネリッサ

ではあの、貴下何とおつしやいますの？ フォーコンブリッチさまに對して、

あの英吉利の若い男爵さん。

ホオシ

何といふつてお前、わたしあの人に對しては何にも言はないの。だつてあの人はわたしの言ふことが解るまい、さうしてわたしにはあの人の言ふことが解らないもの。あの人は拉丁語も佛蘭西語も伊太利語も知るまい、さうしてわたしはお前、正真正銘、英語といつては三錢がたも有ち合してはゐまい。あの人は、つまり立派な男の畫像よ、だけど無言劇を相手に話

をする譯にもいかないからね！ どうだらうあの人の服装は？ あの胴衣は伊太利で買ったらうし、あの太袴は佛蘭西だらうし、あの帽子は日耳曼だらうし、それからあの擧作進退は、屹度各國でもつて寄集めて來たのよ。

ネリッサ

蘇格蘭の殿さまを如何おぼしめます？ あの方の御隣國の。

ポオシ

隣國づからお互ひに深切なのでせうよ、だつて過般あの英吉利さんからみつしりお見舞を受けた其返禮を早晚きつとすると言つてるんだもの。それにはあの佛蘭西さんが保證人になつて、右相違なく御返却申すべくといふ奥印まで捺したらしいわ。

ネリッサ

あのお若い日耳曼さんはいかゞ？ サクソニーの公爵さまの甥御さま。

ポオシ

午前はあの人わたし大嫌ひ、素面であるから。午後は一等可厭よ、酔つてるんだもの。あの人は最上好い時分にさへ人間並より少し悪い方なんだから、最上悪い時分には獸類並よりほんの少しばかり好い方なの。どん

な不運な破目にならうとも、どうかしてあの人とは一しよにゐないやうにしたいと思ひますの。

ネリッサ

でもあの方が選ばうとおつしやつて、萬一正しい匣をおあてなさいましたなら、其時いやだとおつしやつては、お尊父様の御遺言にお背き遊ばすことになりませう。

ポオシ

だからさ、ひよんなことにならないやうにする爲に、後生だからお前、さうでない方の匣の上へライン酒の大きな盃を載せといとくれ、さうすれば其匣の中によしんば惡魔が居ようとも、外にさういふ誘惑物があれば、あの人はきつとそれを選ぶよ。ネリッサや、わたし何でもするわ、あんな海綿さんの奥さんになる位なら。

ネリッサ

お姫さま、決してその御心配には及びません。あの方々はわたくしに御決心をお知らせになりましたが、何れもお國へお歸りになりますさうでござ

ございます。御遺言通り 匣で決めるのではなく、何か他の方法で以て縁組が出来ないやうであれば、もう彼れ申込みはしないとおつしやいまして。

ボオシ お父さまの御遺言通りにしない位なら、千萬年生きたつても私は月の女神のやうに清浄な處女で暮します。まあ嬉しい、それでも兎に角理がわかつて、あの人たちがみんな歸つていつてくれて。あの中の一入だつても、早く歸つてくれれば好いと思つてゐなかつたのは無いんだもの。……どうぞ首尾よく出立いたしますやう！

ネリッサ ね、お姫さま、あの、貴下記えていらつしやいますか？ お父さま御存生の時分に、モントフラットの侯爵さまと御一しよに此處へ見えました、學者でさうして軍人のエニスのお方を。

ボオシ 然々、バッサニオさん。たしか然ういつたつけ。

ネリッサ さやうでございます。あの方は、わたくしの不束な目でお見受申しまし

ボオシ あの方はわたしもよう記えてゐます、お前が褒める通りだと思ふわ。……  
家來 出る。

どうしたの！ 何ぞ用かい？

家來 お姫さま、六人のお方々が、お暇乞をなさらうとて、お待兼でございまして。それから七番目のモロッコのお殿さまからお先觸が参りました、今晚お殿さまが此邸へお着になりますさうにございまして。

ボオシ 六人の客に「さやうなら」をいふのと同じ心持で、其七番目のお客に「いらつしやい」がいへるものなら、喜んで迎へるんだけれど。若し其方がお上人さんのやうな氣質の人なら、よしんば顔は悪魔のやうに黒くつたつても關はない、懺悔の聴役にでもなつて貰ひたいわ、縁談なんか申込まれるより。



……さ、ネリッサ。……お前は先へお出。……やつと一人送り出したと思ふと、またすぐに訪問がある。

みなく入る。

第三場 エニス。公街。

バッサニオとシャイロックと出る。

シャイ 三千兩。なるほど。

バッサ さやう、三ヶ月間ぢや。

シャイ 三ヶ月間。なるほど。

バッサ 今もいつた通り、それに對してはアントニオが義務を負ひます。

シャイ アントニオさんが義務を負ふ。なるほど。

バッサ 貸してくれるかね？ 承知してくれますか？ 返辭を聴かして下さい。

シャイ 三千兩を三ヶ月間、——アントニオさんが義務を負ふ。

バッサ さ、その返辭が聞きたい。

シャイ アントニオは立派な人だ。

バッサ 立派でないといふやうな評判を聞きましたか？

シャイ お、何のくく。わしが立派といつたのは、あの人なら十分信用がおけるといふ事をお前さんにいはうとしたのです。しかし、あの人の財産は、まだ手に握られてゐるのぢやあない。ツリボリへ往つてゐる商船が一艘、印度へも一艘。それから市場で聞けば、三番目の船はメキシコへ往つてをり、四番目は英吉利、其他あつちこつちにまだ幾らも商船を出してゐなさるさうな。しかし船はたか々板子で、水夫はたか々人間だ。陸の

鼠もあれば海の鼠もある、陸の盗賊もありや海の盗賊もある、海賊のことさ。おまけに浪や風や暗礁といふ危険なものがある。が、あの仁なら、ま、よろしい。——三千兩。——あの人になら貸してもよからうか。

バッサ

シャイ

懸念に及ばんやうにしたい。懸念に及ばんやうにしたいから、よく考へて見るのです。……アントニオさんにお目にかゝれますか？

バッサ

シャイ

わたしらと一しよに食事をしてくれ、ばね。  
豚肉の臭ひを嗅ぎにかね？ お前さんがたの有難がるあのナザレの豫言者が悪魔を追込んだ其住居を食へといふのかね？ お前さんがたと賣買もしようし、話もしようし、一しよに歩き廻りもしようが、食つたり飲んだり祈つたりはお前さんがたと一しよにはしない。……市場で何事かあつたかな？ 誰れだ、やつて来るのは？

バッサ

シャイ

あれがアントニオぢや。  
(傍白) どうだ、まるで媚び諛ふ收税吏といふ態だ！ おれは彼奴が基督教信者だから大嫌ひなんだが、殊に阿呆根性から、無報酬で金を貸出して、エニスの利息割を狂はせて、商賣の邪魔をしゃあがるから憎いのだ。彼奴の舉足を捉ることが出来りや、いつかは此怨を晴らしてくれる。きやつは神聖なおれの國民を目の敵にして、場所もあらうに、大勢商人が寄集つてゐる處で、おれの事やおれの商賣を悪口しやあがる、おれの骨折つて儲けるものを高利と呼びやあがる。あんな奴を恕しておくやうぢやおれの國の者は罰當りだ！

バッサ

シャイ

シャイロック。おい〜。  
今手元にある金高を勘定してゐるんです、が、ざつと胸算した處では、逆も三千兩の全額は調ひさうもありませんわい。しかし、關つたことはない。

わしの同族の物持、チューバルがわしに用立てくれませう。が、一寸お待ちなさい！ 何ヶ月とかいはつしやりましたね？……（アントニオに）旦那、相かはらず御機嫌よろしう。只今貴下さんのお噂をしてをりました。

アント シヤイロック、わたしは餘分のものを取つたり與つたりして貸借をしない流儀だが、友人の必要に應じるために慣例を破るのだ。（パッサニオに）幾らお入用だといふことを、貴下お話なすつたのですか？

シヤイ はい、三、三千兩。

アント さうして三ヶ月間。

シヤイ つい失念しました。——三ヶ月間。——さうおいひなすつたつけ。ちやあその證書を。——かうつと……が、一寸申し上げたい、たしか貴下は、利

子を取つて貸したり借りたりはしないとおつしやりましたやうでしたね。決して利子を取つて貸したことはない。

シヤイ ジャコブが叔父のレーパンの羊に草を食はせてゐました時分に——その

ジャコブは聰明な阿母の取計のお庇で、御先祖のエブラハムさんから三代目に當る相續人なんだが、——さうだ、三代目だ……

アント それが如何したといふのだ？ その男が利息を取つたかね？

シヤイ いや、利息は取りませんでした、貴下のいはつしやるやうに正面から

取りはしない。ま、ジャコブのした事をお聴なさい。ジャコブは叔父のレーパンと約束して、若し條文や斑點のある仔羊が生れたなら、それはみんな骨折料にジャコブが貰ふ筈にしましたので、秋の暮に牝羊に交尾慾が來て、牝の後を附廻して、いよく生殖に取りかゝる時分になつて、抜目のないジャコブは、ある木の枝の皮を剥いて、それを交尾んでゐる牝羊の目の前に突立て、おきました、すると、其時に懷妊んで生んだ仔は、どれも斑であつたので、それが残らずジャコブのになりました。これがすなはち利

殖の法なので、ジャコブは天福を得たのです。利殖けるのは天福だ、盗んで利殖けるのでなければ。

アント ジャコブのした事は、言はゞ一種の冒険だ、人力で左右し得べき事ではない、天の力で御差配なされる事なのだ。併し其事蹟が聖書に書いてあるのは、利息を取れといふ爲かい？ 或は金貨や銀貨は牡羊や牡羊と同じだといふのか？

シャイ そりやどうだか知りませんがね、とにかくわしは金にも子を生せます。…が、ま、お聴きなさい。

アント ねえ、バツサニオ、あれをお聴きなさい。悪魔も人並に聖書を引合に出して、おのが目的の後楯にする。併し悪魔が聖書を提供するのは、悪黨が笑顔を作つてゐるやうなものだ、見かけの立派な林檎が心で腐つてゐるやうなものだ。あゝ賈ひ物も存外面は立派なものさね！

シャイ (獨語のやうに) 二千兩。こりや

中々の大金だ。十二月から三ヶ月とすると——すると、かうつと——其割合が…

アント ねえ、シャイロック、わたしたちの

頼みを聴いてくれますかね？

シャイ アントニオさん、貴下は何度も市場でわしの悪口雑言は言ひなすつた、わしの貸金や利子の事で。いつもわしは只肩をゆすぶつて、じつと堪へてゐた、辛苦を忍ぶのはわしら一族



の運命だと諦めてゐたからです。 貴下はわしを邪教信者だの人殺し犬だのと呼んで、此猶太上被へ唾液を吐きかけなすつた、わしがわしの物を利用したのが不埒だといふ理由のみで。 ぢやあ今日になつて、わしに御用がおあんなさるんだね。 へ、そこで以て、わしの處へ來なすつて、これ、シャイロック、金を貸してくれ、斯う貴下がいはつしやる。 お前さんが、わしの髭へ唾液を吐きかけ、野良犬を鬪口から蹴飛ばすやうに、わしを足蹴にしたお前さんが、金を貸せといふ御要求だ。 わしは何と返辭をしよう？ わしは斯んな風には言はないだらうかね「犬に金が有りますか？ 三千兩を犬が立立てな事が出来ませうかい？」それとも腰を低くかゝめて、奴隷のやうに息をかすめて、卑屈らしい小聲で、斯ういひませうか、旦那さま、貴下さんは先の水曜日には唾を吐きかけて下さいました、何々の日には蹴飛ばして下さいました、又いつぞやはわたしを犬とおつしやつて下さいま

した。 其御恩顧に報いまするために、これ／＼だけの金子を御用立いたしまする？

アント

此後とてもわたしはお前を蹴飛ばすかも知れず、唾を吐きかけるかも知れない。 若しお前が金を貸してくれるなら、深切づくでなく貸してくれるが、いゝ。 深切づくで貸す場合には、不生産的の金銀に子を産せるなんて事は決してあるまじきことだからね。 むしろ敵に貸す積りで貸してくれ、さうすれば、若し違約した場合には、敵討の積りで、公々然に科料が取立てられるといふものだ。

シヤイ

まあ／＼、さう腹を立てなすつちやあ困る！ わしは貴下さんの親友になつて、これから可愛がつて貰ひたいのだ。 恥辱をかゝされたことも忘れてしまつて、當座の御入用を用立てるばかりでなく、その金に對しては鏝一文の利子をさへも取らない料簡です。 それなのに貴下は聴かつしやら

ん。深切づくで貸さうといふのに。

パッサ

さういへば深切かも知れない。

シャイ

其深切の證據を見せませう。わしと一しよに登記所へござらつしやい、あ

そこで、貴下の一判で可い、證書に捺印をなさい。それから、ほんの戯談

にね、かういふことを約束しておきませう、萬一貴下が云々の日限までに、

云々の場所に於て、證書面の金額を御返済なさらんやうな場合には、其科

料として貴下のその白哲な肉を、丁度一ポンドだけ、貴下の肉體の何處か

らでも、わしの好く處から切取つても異議はないといふことを。

アント

よろしいとも。わたしは其證書に印を押して、あゝ猶太人も中々深切だ

といひませうよ。

パッサ

わたしの爲にそんな證書に捺印なすつちやなりません。わたしは寧ろ據

ない運命と諦めます。

アント

なあに、心配なさるなよ。期限をきらすやうなことはありません。此二

月の中に、即ち其證書の期限よりも一月前に、證書面の九倍以上の入荷が

ある筈です。

シャイ

(獨語のやうに)おゝ、祖先のエブラハムどの、何といふあさましいことだ基督

信者は。自分達が世智辛いことばかりしてゐるから他人もやつぱりさ

うだらうと疑ふんだ!……(パッサニオに)ね、もし、貴下さん、よしんば彼御仁

が期限をきらしたとして、其科料を取立て、それがわしの何の利益にな

りますか? 人肉を一ポンド取立て、見たところで、羊や牛や山羊の肉だけ

の價值もなけりや利得にもならん。ね、これから可愛がつて貰ひたいば

つかりに深切を盡さうといふのです。それを受けて下されば可し、下さ

らんけりや、さやうなら。どうかわしの好意を思つて、あんまり酷くして

下さるな。

アント よろしい、シャイロック、證書に印を捺しませう。

シャイ ちやあ直に登記所でお目にかゝりませう。此面白い證書の認め方は貴下がたお指圖なすつて下さい。わしは歸つて直さま金子を調達して——だらしのない奴に任せておいたので心配でなりませんから——宅を一寸見廻つて、やがて御一しよになります。

アント 急いで往つて來なさい。……

シャイロック 入る。

あのヒブルウ人、どうやら基督信者になりさうだ。大分深切者になつた。

バッサ 口先が深切で肚の黒い奴があるから、油断は出来ませんよ。

アント さあ、往きませう。此事は心配するにや及びませんよ、わたしの船が其期限より一月も前に歸つて來るから。

二人ともに入る。

\* \* \* \* \*

第二幕

第一場 ベルモント。ポオシヤ邸の一室。

コオネットの盛奏。モロツコの君井に其従者出る。其後より  
ポオシヤ姫、ネリツサ井に侍者大勢。

モロツコ

顔の黒いのをお嫌ひなさるな、これは爛々たる太陽どのと隣りやつて育つた標章の制服なのです。日の神の火が氷柱をさへ能う融さん北國生れの、眞白な顔色の男を連れておいでなさい、貴下への心中立に、互ひの腕に瘡

を附けあうて、そいつか、私しか、どつちの血が赤いか試しませう。憚りながら、私しの此顔色は、勇者をも怖れしめたものです、又私しの國の評判處女共が、實際此顔をば愛しをりましたぢや。それ故私しは、此顔色を取換へようとは思ひません、お姫さん、内々貴下に好かれないと思ふ爲の外には。

ポオシ

わたくしは世間の處女のやうに、目の指圖ばかりでは物を選びません。ましてわたくしの運命は籤で豫定されてをりますから、自儘に選ぶことは出来ませんの。併し若し父が、先日お話したやうな方法で以てわたくしをお選當遊ばすお方の妻になるやう、豫め制限しておきませんのでしたら、御高名な殿下、わたくしは貴下をも、今日までに御入來のどのお方とも同じに、お見受申さうと存じてをります。

モロツコ

それだけ承はつて先づ満足です。ではどうか匣へ御案内下さい、わたし



の運命を試みます。曾ては波斯王を斬り、又三度までも土耳其王ソリマ  
 ンを打破つたさる波斯王族をも斬殺した此偃月刀を誓ひに掛けて、お姫さ  
 ん、わたしは貴下の爲になら如何な怖い眼玉をも睨み返して御覽に入れ  
 る、地球上の如何な勇猛な心をも壓倒して御覽に入れる、牝熊の胸から乳  
 を吸うてゐる仔を引奪つても御覽に入れる、餌食に飢えて吠猛つてゐる獅  
 子にからかへとおつしやれば、随分からかつても御覽に入れる。けれど  
 も、あゝ、どうも情ない！如何な勇猛のハーキュリーズも、骰子で勝負を争  
 ふ場合には、臆病者のリカスの手から却つて如何な好い目が出るかも知れ  
 ん。そこで大豪傑も小わつばに負ける。随つてわれらも、盲の運命めに  
 案内される以上は、つまらん奴が手に入れ得るものをも能う手に入れん  
 で、それを悔み死に死ぬのかも知れん。  
 何れとも御運にお任せなさらねばなりませんので、全くお止め遊ば

ホオシ

すか、或はお試み遊ばすならば、其前に御誓言を願ひます、萬一選びあや  
 まらせられました場合には、以後いかなる婦人へも結婚は申込まないとい  
 ふ御誓言を願ひます。それゆゑ、ようお思案遊ばせ。

モロッコ

二度とは縁談は申込みません。さ、運試しの席へ御案内下さい。

ホオシ

いゝえ、まづ教會堂へ参りませう。御運試しは午餐後に遊ばしませ。

モロッコ

あゝ、運命の神の御意次第で、おれが人間中の幸福者になるか、一番みじめ  
 な者になるか、定るのぢや。

コオネット。皆々入る。

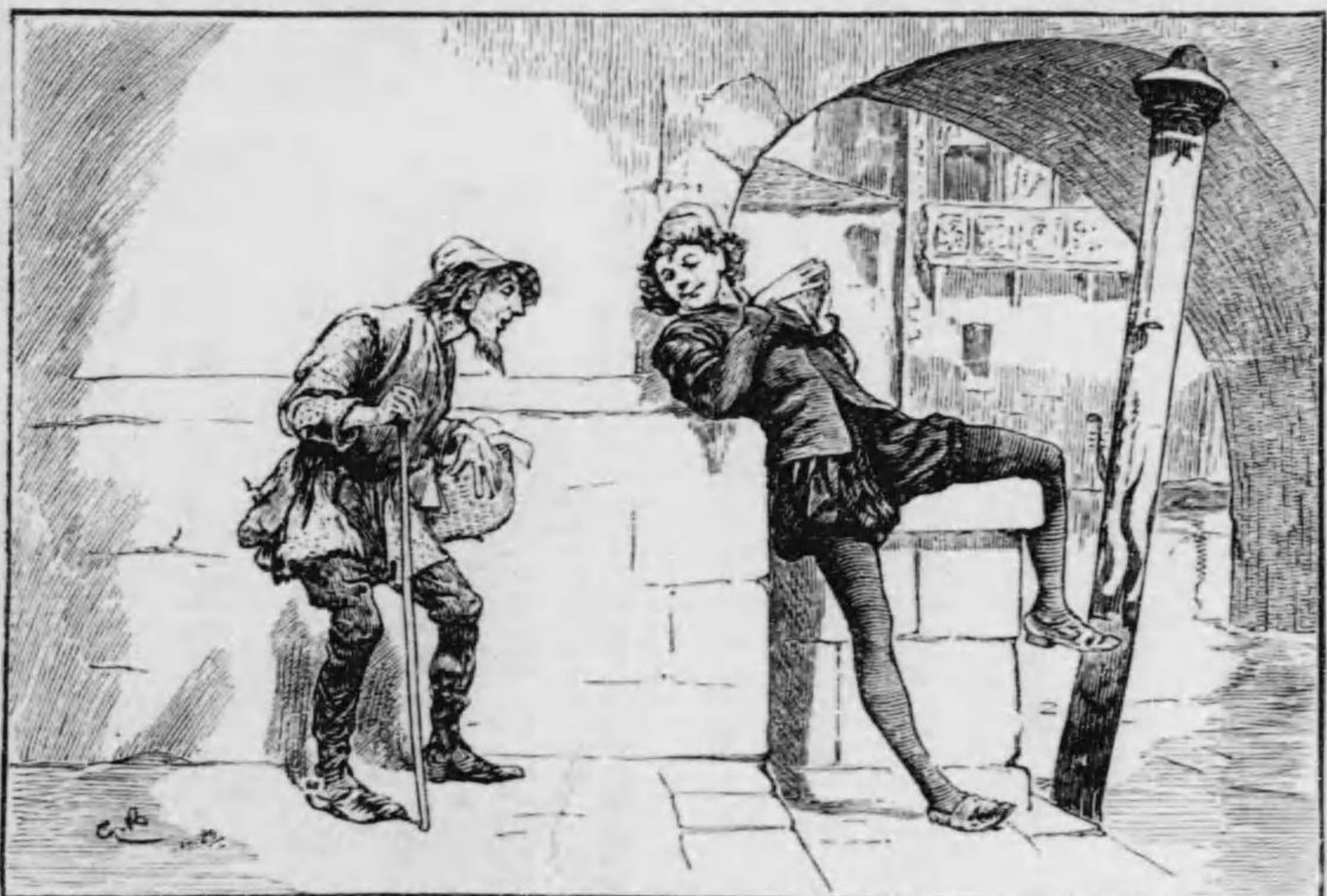
第二場 エニス。街上。

ランスロット出る。

ランス

きつとおれの良心めは彼是言やあしないだらう、主人の猶太人を袖にして  
 おれが駆落をしたからつて。 悪魔め脇の脇へ來やがつて頻りにおれを誘  
 惑すらあ「ゴッポー、ランスロット・ゴッポー、ランスロットさんや」でなければ  
 「ゴッポーさんや」でなければ「ランスロット・ゴッポーさんや、脚をお働かしな  
 さいよ、飛出しなさいよ、逃げつちまひなさいよ」。すると、おれの良心め  
 が言ふわ「うんにや、氣を附ける、正直なランスロットや。氣を附けな、正直  
 なゴッポーや」でなければや今いつたやうに「正直なランスロット・ゴッポーや、逃  
 げちや不可よ、駆落なんかは七里けつばいだよ。」ところが、最も勇敢な  
 悪魔の大將が乃公を促く。「いざ！」と悪魔が言はあ。「さあ〜！」と悪魔  
 が言はあ。「一生懸命に大勇氣を奮ひ起して逃げろ！」と悪魔めが言やあ  
 がる。ところが、おれの良心め、おれの心の臓の首ねつこの處にぶらさ  
 がつてゐて、如何にも賢明さうにおれに言ふわ「我正直なる友ランスロッ

トよ、御身は正直なる男子の子息である以上……までよ、寧ろ正直な婦  
 人の子息だね、何故つて、親父や少々臭い方だから、少々來つて方だから、  
 聊か好きな方だからね。そこで良心めが言ふわ「ランスロット、動いちや  
 不可よ。」すると「動け」と悪魔が言はあ。「動いちや不可」とおれの良心め  
 が言ふ。「良心さん」とおれが言はあ「貴下の御意見は御尤です。」「悪魔さん」  
 とおれが言はあ「貴下の御意見も御尤。」……かうつと、おれの良心のいふ  
 通りにすりやあ、おれは且つくの猶太人の處にじつとしてゐなけりやならん  
 が、その且つくは、何の因果か、まあ一種の悪魔のやうなものだ。しかし  
 若し且つくから逃げることになりやあ、おれは悪魔の言ふ通りになるんだ  
 が、的と來ては、——眞平御免なさいよ、——正眞正銘まがひなしの悪魔  
 さんだ。……猶太人は、大丈夫、悪魔の權化だ。それなのに、その猶太人と  
 一しよにゐろつておれに意見するてえのは、おれの良心もよつほど厠慾な



良心だなあ。悪魔の言ふことのはうが深切だ。…悪魔さん、おれは逃げるよ。おれの足は貴下の御命令のまゝだ。おれは逃げるよ。

老ゴッポー手籠を提げて出る。

ゴッポ お若いお方さん、もしく、猶太人の旦那のお邸へは、如何参りますかね？

ランス (傍白) おうやおや！ こりやおれの眞實の實の親父どんだ！

霞眼どころでないからして雲霧目とでもいふ奴だ、で以て全然おれが目に入らないのだ。一番問答打つてくれう。

ゴッポ お若い旦那さん、お願ひでござります、猶太人の旦那さんのお邸へは如何まゐりますかね？

ランス 次の曲り角で右手へ曲るんだがね、一等級の曲り角へ往つたら左手へ曲るんだ、それから其次の曲り角へ來たら、何方へも曲らないで、遠廻りにぐるりと曲ると猶太人の宅だ。

ゴッポ やれく！ そいつは解りにくさうな道でござりますね。時に貴下、御案内でござりますならお知らせ下さいまし、その猶太人さんの許にをりましたランスロットといふ者は今でもまだ居りますか知らん。

ランス あのランスロットの旦那のことかい？…(傍白) さ、見てろ。今おれが雨を降らせて見せるから。…ランスロットの旦那の事かね？

ゴッポ

何の貴下、旦那なんかぢやござりません、貧乏人の件なのでござります。

爺は、自身で申しては何でござりますが、正直な、非常に貧乏な者で、お冥加なことは、まだ結構に生延びさうにござります。

ランス

はて、親父なんか何だつてかまやしないよ、おれはランスロットの旦那の事をいつてるのだ。

ゴッポ

へい、貴下さんのお友達、へい、そのランスロットの奴でござります。

ランス

だがさ、ね、此を以ての故に、困るねえ、お爺さん、ね、此を以ての故に、いゝかね、お前はランスロットの旦那の事を聞くんだらう？

ゴッポ

へい、旦那さん、全くそのランスロットの事でござります。

ランス

ね、此を以ての故に、ランスロットの旦那だよ。お父さん、ランスロットの旦那なら、もう何も言ひなさんなよ、如何となれば、いゝかね、あの若い紳士は、宿命並びに運命、別しては三姉妹なんかといふ變妙來な學問の然ら

しむる所でね、實際死亡に及んだよ、すなはちお前たちの使ふ平凡な語で言へば、天へ上つちまつたよ。

ゴッポ

やれ、それはまあ、とんでもないこつちや！ 彼奴はわしの老後の杖で

あつたに、柱であつたに！

ランス

はてな、おれの體が棒きれや支柱や杖や柱に見えるか知らん。……お父さん、おれがわからないかね？

ゴッポ

あゝ、お若い旦那さん、貴下は何方だかわしは存じません。併しど

うぞおつしやつて下さいまし、わしの小僧めは、——南無あみだぶ、——生きとりますか、死んぢまひましたか？

ランス

お父さん、おれがわからないかい？

ゴッポ

あゝ、貴下さん、わしは霞眼でござります。貴下さんは存じません。

ランス

いかさま、成程ね、よしんば目が見えたつて、お前さんにはおれはわかるま

いよ。子を知るは賢なる父なりとあるからね。ねえ、お爺さん、お前さんの息子さんの事を話してあげるからね(膝まづいて)さ、祝福をしてくれ。事實は早晩明白となる。人殺しは隠しおほされるものでなしってね。もつとも息子は隠せるかも知れんが、長い間には露見すらあね。

ゴッポ あ、もしく、お立ちなすつて下さい。大丈夫、貴下さんは、伴のランスロットではない。

ランス おい、もう好い加減に戯談を止にして、おれに祝福しておくれよ。おれはランスロットだよ、嘗ては小僧ツ子であり、現に伴であり、將來まさに赤ん坊たらんとする所のランスロットだよ。

ゴッポ どうも伴だとは思へない。

ランス さあ、どう思ふのが當然だか、それは知らんがね、とにかくおれはランスロットだよ、猶人の召使でね、さうしてお前さんのお女房のマーゼリーで

のは、たしかにおれのお母だよ。

ゴッポ あれの名はマーゼリーだ、全くだ。あ、若しお前さんがランスロットなら、お前は間違ひなくおれの肉親の伴だ。(後向になつてゐるランスロットの頭を撫廻して)おや、くくく！ 何て髭を生やいたこつちや！ 貴様の頤の毛は宅の鞍馬のドビンの尻尾の毛よりも多いがや。

ランス (立上りながら)ちやあドビンの尻尾の毛は、逆に延びると見えるな。先だつて見た時には、大丈夫、おれの面の毛よりや奴の尻尾の毛のほうが多かつたがなあ。

ゴッポ やれ、く、えらい變りやうぢや！ 時に、御主人との折合はよいか？ 旦那へ贈品を持つて来た。え、どんな鹽梅ぢや？

ランス 上等々々。だがね、おれのはうちや駈落することに決つちまつたんだ、だから突走つて見なけりや決著はつかんがね。おれの旦つくは全くの猶人

だよ。あんな奴に贈品なんか！首縊り縄でもくれてやるがい。おれは彼奴に奉公した、めに飢え死をしかつたよ。御覽よ、一本々々おれの指の数が算へられらあ、おれの肋骨で以て。お父さん、いゝとこへ来てくれた。その贈品をバッサニオさんといふ旦那へ献げてくんあ、あの人立派な新しい好い制服を家來に被せらあ。あの人に奉公が出来なけりやあ、おれはもう地面のありつたけ駈落だ。…や、何て間がいゝこつたらう！その旦那がやつて來らあ。お父さん、さ、早くあの方へ。此上猶人に奉公してゐるやうぢや、人間ぢやないからなあ。

バッサニオ出る、ソオナード其他の従者と共に。

バッサ さうしてもいゝ。が、急いでしなくつちや不可ぞ、遅くも五時には夜食の準備が出来るやうにね。此書面をそれく渡して貰ひたい。制服を早速仕立てるやうにね。それからグレンシャノには、すぐわしの宿へ來るやうにね。

うにね。

家來心得て入る。

ランス お父さん、さあの人へ。

ゴッポ へい、貴下さま、御機嫌さま宜しう！

バッサ ありがたう。何かわしに用かね？

ゴッポ へい、あの此處に居りまする件めは、貧乏な小僧めでござりますが…

ランス 貧乏な小僧ぢやありません、へい、大金持の猶人の家來なんで。もつとも

委細の事は親父から證明いたします筈でございますが…

ゴッポ 件めは、是非ともその貴下さまに、へい、是非その…

ランス 全くその、一言以て之を蔽へばです、目下の處は猶人に奉公してゐるんで

すが、是非その、これは何れ、親から御證明に及ぶでせうが…

ゴッポ 主人と件とは、貴下さまの前でございますが、とかくその縁遠いほうでござ

ランス

ございますので……

早い話が、斯うなんです、猶人がわつしをね、虐待したもんですから、わつしもね、ついその據なくつて……もつとも此點は親父が、老年の事でありますから、何れ當人の口から御明言するでありませうが……

ゴッポ

手前が持参いたしました此一皿分の鳩は、旦那さまに献上いたしたうございませう、さうしてお願ひと申しますは……

ランス

極簡單に申しますと、お願ひといふのは、必しも敢てその、わつしの一身に關係しないでもないやうな事なんです……何れそれは此正直な老人から申し上げるでせうが、わつしが申しては何ですが、老人ではありますけれども、わつしの親父は貧乏人なんです、それでその……

バッサ

一人で二人分をしやべりを。……でお前さんの望といふのは？

ランス

貴下に御奉公がしたいんで、へい。

ゴッポ

それがお願ひの勘目なのでございます、へい。

バッサ

(ランスロットに) わたしはお前をよく知つてゐるよ。願ひは聞届けました。お前の主人のシャイロックが、けふお前をわたしに使つてくれといつて推舉したよ、金持の猶人から暇を取つて、貧乏紳士の家來になるのを推舉といつてよいか如何か知らんが。

ランス

「神に恵まるゝは富めるなり」て諺の上の句の下の句とを、旦那のシャイロックと貴下とで分持つて居なさらあね。神様に恵まれてゐるのは貴下なんです、富んでるのが旦那なんだ。

バッサ

中々うまいことをいふね……お父さん、息子と一しよに行きなさい……元の旦那に暇を貰つたら、わたしの宿へ訪ねて来るが……(家來に)他の奴らのよりも華美な飾りの附いてるのを被せてやつてくれ。いゝか？お父さん、さ、お入り……おれには迎も奉公口なんか得られないよ、迎も

ランス

ね。おれの智慧ぢやあ迎も口上は述べられないからなあ。……はてな（掌紋を見て）伊太利ぢうにおれのよりも上等の掌を有つてる奴があるか知らん、こりや大上吉幸運疑ひなしといふ掌なんだ。へッ、こりや取るに足らん長壽線といふ奴だ。これは嬋澤山といふ詰らん線だ。あゝく！  
 嬢を十五人有つたつて何にもならんや！ 男一人に寡婦が十一人、生娘が九人ぢやあ、へッ、ほんの些細な御收入と来てけつかる。えゝと、それから三度溺死人になるのを助かる。それから羽薄團の尖角で九死一生の目に逢ふ。へッ、どれもく詰らない災難除だ。運命て奴は女神だといふが、此様子ぢや中々深切な女子だね。……お父さん、さ、おいで。おらあ旦つくから今直に暇を取つちまふからね。

ランスロットとゴッポーと入る。

パッサ

リオナード、どうか頼むよ、今いつた品々を買求めて、それを順序よく積

レオナ

込んで、急いで戻つて来て貰ひたい、今夜のうちに主要な友人逆を響應したいと思ふから。急いで往つて来てくれ。  
 出來ますだけ盡力いたします。

グレシヤノ出る。

グレシ

（レオナードに）御主人は？

レオナ

あそこにをられます。

レオナード入る。

グレシ

パッサニオさん！

パッサ

グレシヤノ！

グレシ

貴下にお願ひがあるよ。

パッサ

あゝ、承諾んだよ。

グレシ

決して否とはいはせませんよ。僕は、どうあつてもベルモントまで、貴下



と一しよに往かなくつちやならん。

バツサ

ちやあ仕方がない、一しよに往くさ。だがね、グレシヤノ、君にいつておくことがある。君はあんまり無作法で、口のきゝ方が亂暴でもあり、臆面が無さ過ぎるよ。天真爛漫は君の持前なんだから、僕等はそれを瑕疵だとも思はないんだけど、君の性質を知らん者が見た時分には、如何なにか放逸な人間のやうに思ふかも知れない。どうか君のその陽氣な活潑り過ぎる心をおとなしい、冷靜な氣分の幾滴かを注射して、もう少し沈靜させるやうに力めて貰ひたいね。さうでない、君の無作法な舉動の爲に、わたしまでが先方に誤解されて望を失ふやうなことになるまいものでもないからね。

グレシ

バツサニオさん、ま、聞いて下さい。大丈夫です、僕は嚴肅な態度を装ひますよ、物をいふにも鄭重にやります、容易に怒罵るやうなことはしません。

衣囊にお經の巻をいれときますよ、むづかしい面附をしてゐますよ。そればかりぢやない、食事時にお祈禱がはじまると、如是鹽梅に帽子で目をかくして、溜息をして、「アーメン」といつてね、一切もう大まじめに、禮法通り、本文通りにやりますよ、お祖母さんの御機嫌を取ることにかけては場數の功者といふ鹽梅式にね。若しそれをやらなかつたら、將來決して僕を信用なさらんがいな。

バツサ

ま、とにかくお手並を拜見しよう。

グレシ

だがね、今夜は例外ですよ。吾々の今夜する事を以て僕の將來を量つて下すつちや困りますからね。

バツサ

無論そんなことをしちや笑止千萬だ。今夜は寧ろ思ふさま無禮講式に、大陽氣にやつて下さい、愉快に浮かれようといふ計畫でみんながやつて來るんだから。併しこれでお別れしよう、わたしは用事があるから。

グレシ 僕もロレンゾの連中の許へ往かんけりやならん。何れ夜食時にお訪ねしませう。

二人ともに入る。

第三場 同所。シャイロックの宅の一室。

ジエシカとランスロットと出る。

ジエシ わたし情なく思ひますの、お前が暇を取つて出ていつてしまふのを。我家はまるで地獄なんだけれど、今まではお前といふ陽氣な鬼がゐたもんだから、幾らか面白くないのを紛れることが出来ただけれど。だが、さやうなら。……(貨幣をランスロットに與へて)少しだけとお前に。……それから

ね、ランスロット、きつと夕飯の時に、ちきにロレンゾさんにお逢ひだらうから——お前の今度の御主人のお客さんになつて見えるんだからね——どうぞ此手紙を渡しとくれ。(手紙を渡して)内密よ。……ちや、さやうなら。お前とお話をしてるのをお父さんに見附けられたくないから。



ランス さやうなら! 涙の奴めが舌を制肘しやがる。……嗚呼、異教徒とはいへ稀なる美人、猶人とはいへど可憐の處女!……こりやあ屹度基督信者の中によくないことをする奴があつて、ついお前さんを産ませてしまつたんだね。……が、さやうなら。馬鹿涙めが落ちやあがるので、おれの男らしい勇氣がへこ

たれつちまふ。……さやうなら。

ランスロット泣きながら入る。

ジェシ  
さやうならよ、ランスロット。……あゝ、何て情ない因果だらう、現在の  
お父さんの子と生れたのを恥しく思ふといふのは！ けれども、假令血と  
血はつながつてゐたつて、品行上は親子ぢやない。おゝロレンゾ、お前が  
約束を守つてさへおくれなら、わたしや思ひ切つて決心します、基督信者  
になつてお前の女房になります。

ジェシカ入る。

第四場 同處。街上。

グレシヤノ、ロレンゾ、サラリノ及びソラニオ出る。

ロレン

なあに、夕飯の時に抜出して、わたしの宿で假装の支度をして、直に戻つて  
來ることにしようよ。一時間ありや大丈夫だ。

グレシ

準備がまだよく出来てゐないよ。

サラリ

炬火持の事なんかもまだ定つてゐませんせ。

ソラニ

手際よく運ばないやうちやあ拙いから、わたしは寧ろ中止したほうがいゝ  
と思ふ。

ロレン

まだやつと四時でさ。準備する間が二時間もあらあね。……

ランスロット 書状を持つて出る。

や、ランスロット先生、何だね？

ランス

えへん、此状を御開封下されますれば、委細明白に相分るでございませう。

ロレン

(受取つて) こりや見覺のある手だ。ほんとに美しい手なんだ。書かれた  
此白い紙よりも之を書いた手の方がすつと美しいんだ。

グレシ (他の者に) 艶書だよ、きつと。

ランス (ロレンツに) お失禮いたします。

ロレン どこへ往くんたい？

ランス へい、あの古い旦那の猶人の許へ、今夜新しい旦那の基督信者さんと夕飯を御一しよにおあがんなさいと言ひつけに往くんです。

ロレン おい、これを取んな。(貨幣を渡し) ジェシカさんにさういつてくんな、決して間違へはしませんて。内密でいふんだよ……

ランス ロット入る。

さ、諸君、今夜の催しの準備にかゝつて下さい。炬火持は出来たよ、わたしの手で。

サラリ よし来た、ぢやわたしは直に取りかゝらう。

ソラニ わたしもやるよ。

ロレン 一時間も経つたらグレシヤノの宿へ来て下さい、わたしもグレシヤノもあ

そこにあるから。

サラリ よろしい。さやうなら。

サラリノとソラニオと入る。

グレシ 今のはジェシカさんからだらう？

ロレン 何もかも君に話しつちまはなけりやならない。ジェシカが親父の宅から拔出す手続をいつてよこしたんだよ、金貨や寶石を持出すといふことや、侍童の被る服を準備してゐるといふことや何か細々といつてよこしたんだよ。もし親父のあの猶人が天へ上るやうなことがあるや、全くあの品の高い娘のお底だね。あゝいふ娘には災禍なんてものが取附かう筈が無いね、不信者の猶人を親に持つたといふ祟で、もありや格別だがね。さ、一しよにゆかう。歩きながら読んで見たまへ。ジェシカさんが炬火持の

役を務めようてんだよ。

二人ともに入る。

第五場 同處。シャイロックの宅の前。

シャイロックとランスロットと出る。

シャイ  
なあに、今に見ろ、貴様だつて目があるからにや、此シャイロックさまとバツサニオとの差別が見分けられる時が来るだらうから。……（奥に向ひて）こりやジェシカ！……もう大食ひは出来んぞ、おれの家で食倒したやうには……こりやジェシカ！……熟眠をしたり、大餅をかいたり、着物を引裂いたりすることはもう出来んぞ。……え、ジェシカといふに！

ランス  
え、ジェシカといふに！

シャイ  
だれが貴様に呼べといつた？ おれは呼べと吩咐はしないぞ。

ランス  
だつて貴下が常住のやうに、わしにさういつたからさ、貴様は吩咐けなけりやあ何一つ能い爲ない奴だつて。

ジェシカ出る。

ジェシ  
お呼びなの？ 何御用？

シャイ  
ジェシカや、わしは宴會に招ばれて往く。鍵は悉皆そこにあるぞよ。……だが何の爲に往くか？……深切心があつておれを招ぶんぢやあない、只機嫌を取らうためだ。併し此方も憎い餘りに往つてくれる、奢り散らす基督信者の物を喰ひ潰してくるために。ジェシカや、娘よ、よく家に氣を附けなよ。……あ、往きたくないわい。何となく不吉な事が起りかけてゐるやうな氣がする、ゆうべ金財布を夢に見たから。

ランス さ、どうぞお出かけして下さい。わしの若い旦那が貴下の御擯斥（御臨席）を待つてますからね。

シヤイ へん、おれはまた彼奴等の擯斥を覺悟の前だ。

ランス それからね、多勢で以て、いろ／＼な催しの計畫をしてゐなさんです。

——その茶番狂言を貴下に御覽なさいといふ譯ぢやありませんけれどね、若し間違つて御覽なさんるやうなことがありやあ、先の復活祭の月曜日

（四月十四日）の午前六時に鼻血が出たのは、其前兆だつたんでさ、あの不祥

シヤイ

え、何だと、茶番の催しがある？……なあ、ジエシカや、戸口は何處もかも閉めつちまひなさい。太鼓の音やあの捻れ首の、可厭なきい／＼聲の笛が聞えて來たら、決して窓口へ上んなさんるな。紅白粉を塗りこくつた基督信者の阿呆面を見ようために、決して街中へ頭なんぞ突出しなさんなよ。

家の耳は残らず塞いどきなさい、といふのは窓のこつた。馬鹿げきつた浮ついた物音なんかを、此眞面目な邸内へ入らせてはなりません。……あゝ、どうも今夜は宴會なんぞへ出かけたくない。が、往つて來よう。……（ランスロットに）おい、貴様は先へ往つて、直に參られますと言ひな。

ランス ぢやお先へ參ります。……（ジエシカに）嬢さん、かまはないでね、窓からお覗きよ。

いきな信者が通られます、

一目くれても惜しくはあらぬ。

歌ひながら入る。

シヤイ

何を言つたんだ、え、あの阿呆奴めが？

ジエシ

「嬢さん、さやうなら」といつたきりなの。

シヤイ

あの阿呆め悪氣はない奴だが、大食ひで、爲になる仕事となると大の懶

憎者で、晝日中野良猫よりもよく眠やあがる。なまけ蜂はおれの巢にはおかれぬ。だから暇をくれて、借金で贅澤をしをる奴におつゝけてくれた、浪費の手傳をさせるために。……さ、ジエシカ、お入り。おれは多分直に戻つて来るだらう。吩咐けた通りにしなよ。入つてから、戸口々々をよくお閉めなさい。しつかり締めればしつかり占める。經濟家に取つては今でも意味の深い諺だ。

ジエシ  
さやうなら。……(シャイロック入る) 思ひ通りに事が運べば、わたしはお父さんを失してしまふし、お父さんは娘を失くしてしまふんだ。

ジエシカ入る。

第六場 同處。

クレシヤノとサラリノと假面を被りて出る。

クレシ この庇小屋だせ、ロレンゾが待つてゐてくれと頼んだのは。

ソラニ もう時間は過ぎたくらゐだ。

クレシ 時間より後れるといふのは不思議だね、戀人は時計の針をまだるつこからんけりや虚だからねえ。

サラリ ところが、戀の女神の鳩車だつて、結びたての戀の絆に封印を附けるためには全速力で駆出すけれど、とうに契約濟の夫婦中を繼續さするためといふのちやあ、ねつから乗氣にならんさうだ！

クレシ そりや何事もさうだ。宴席から起つ時分には、誰れだつて、最初席に着く

時程の鋭い食欲は有つてゐないからね。馬だつてもさうだ、長い曲りくねつた道程を到底往ほどの熱心を以て還ることはしないからね。何事でも、手に入れたつちまつてからよりは、追求する方に身が入るのが定例さ。商賈船が、旗や幕で以て飾り立て、本國の港から始めて出帆する有様は、まるで道樂息子のお出ました、輕薄な風が賣女のやうに、ちやほやと吹いて来て、手を引張るやら、抱きしめるやらだ！　ところが、その歸つて來る姿を見ると、これもまた道樂者の朝歸りそのまゝだ、肋は傷み、帆は破れて、輕薄な賣女の風に思ふさま玩弄にされて、乞食のやうになつて戻つて來らあね、瘦せて、ぼろつこになつてね。

サラリ

(向うか見て) あそこへロレンゾが來た。話はまあ後にしよう。

ロレンゾ出る。

ロレン

諸君、長く待たせて濟まなかつた。わたしの故ぢやないよ、用の都合で、

ついその諸君を待せたんですよ。其代り、若し諸君が、將來細君を盗み出さうとするやうなことがあつたら、其時にやわたしが諸君のために、どんなにでも長く見張をしますよ。さ、こつちへ來てくれたまへ。こゝに住んでるのです、舅の猶人は……おい！　だれか居るか？

ジエシカ侍童の服を被て樓上へ出る。

ジエシ

貴下は誰れです？　念の爲に返事をして下さい、大丈夫聲を知つてる積りですけれど。

ロレン

ロレンゾよ、お前の好人。

ジエシ

ほんとにロレンゾよ、成程好人だわ、貴下ほど好いてる人はないんだもの。ね、ロレンゾさん、わたしは貴下の有だといふことを貴下の外に、誰れが知つてるでせう？

ロレン

天とお前の胸とが其事の保證人だよ。



ジェシ

そら、此匣を受取つて頂戴。受取るだけの價値はあつてよ。

夜なので嬉

しい、貴下

がわたしを

見ないから。

だつてわた

し如是扮装

をしてるか



ら恥しいもの。だけど、戀は盲だから、戀をする者は、どんな子供氣な阿呆らしいことをしたつても、それが自身の目には見えませんとさ。でも若しわたしが如是扮装をしてるのが見えようもんなら、キュービッドさんだつて、眞赤な顔をなさるでせうよ。

ロレン

よ、降りていらつしやい、貴嬢はわたしの炬火持の役をしなけりやならん

のだ。

ジェシ

え、此恥しい姿で以て炬火の前へ出ろつて？ まあ！ かうしてゐるだけでも眞實に恥かゝやかしいわ。炬火持は物を見顯す役ぢやなくつて？

わたしや隠れてゐなけりやならない身の上なのよ。

ロレン

だから隠れてゐるよ、貴嬢の本態は、可愛らしい侍童姿に。とにかく直に降りていらつしやい。でないと、秘密な夜はずんく更けてしまふし、

パッサニオの宴會ではわたし達を待ちかねてゐるから。

ジェシ

わたし戸締りをしてね、もつとお金を體に附けて、すぐ貴下と一しよにな

るわ。

ジェシカ樓上に消える。

クラシ

此僧帽を誓にかけて、中々愛嬌者だね、猶人とは思はれない程に柔順だね。

ロレン

わたしがあの娘を心底可愛がらないやうなことがありや、此ロレンゾ罰が

當つちまふ。何故つて君、あの娘は怜悧でもあり——若しわたしに批判の権利があるなら——美しくもあり——若しわたしの目が間違つてゐなけりや——眞實でもある、これは現にあの娘が實證を與へたことなんだ。だからわたしは、その怜悧な、美しい、眞實な女に相當するだけの敬愛の情を一生あの娘に對して表さなければならぬと思ふのだ……

ジエジカ 假装のまゝで樓下へ出る。

おや、もう來たのり……さ、諸君。往かう！ 假装仲間が今頃は待ちくたびれてゐるだらう。

ジエジカ 及びサラリノと共に入る。

アントニオ 出る。

アント どなた？

グレシ アントニオさん！

アント

何をしてるんだね、グレシヤノ！ 他の者は何處にゐますり。もう九時だよ。友人連はみんな貴下を待つてますよ。今夜は狂言は止だ。順風になつたから、パッサニオさんはもう直に乘込むでせう。わたしは貴下を探しに二十人も人を出した。

グレシ

難有い。乗込んで出帆さへすりやあ、今夜はもうそれで澤山だ。

二人ともに入る。

第七場 ベルモント。ボオシヤ邸の一室。

コオネットの盛奏。ボオシヤ出る、あとよりモロッコの君及び其從者。

ボオシ さ、その幕を開けて、三種の手匣を、殿下の御覽にお入れ。……さ、お擇び遊ばせ。

モロッコ 眞先の黄金の匣には、かういふ銘が刻してある、「吾を選ぶ者は衆人の欲するものを得む」。其次の銀の匣には、こんな約束が書いてある、「吾を選ぶ者は其徳相當のものを得む」。此第三の、光のない鉛の匣は、警告までが無愛相ぢや。「吾を選ぶ者は其有する總額を他に與ふるか若しくは危うせざるべからず」。……選び當てた場合には、如何してわかりますか？

ボオシ 匣の一つにわたくしの肖像畫が入つてをります。それをお選び遊ばせば、わたくしの身も貴下の御所有となるのでございます。

モロッコ 何れかの神明、何卒われらの判斷力を案内なされて下さい！……かうつと。……銘をもう一度査べ返して見よう。此鉛の匣は何といふか？「吾を選ぶ者は其有する總額を他に與ふるか若しくは危うせざるべからず」。



他に與へる。何の爲に？鉛の爲に？鉛の爲に總額を危うする。此匣めは人を威嚇しをるわい。凡そ人が總額を危うするのは、何か旨い利益が得られさうに思へばこそぢや。黄金の心は、見すばらしい鐵屑などに手は觸れん筈ぢや。おれは鉛なんぞの爲に何一つ他に與へようとも危うしようとも思はん。……純潔な色をしてゐる銀の匣は何といふ？「吾

を選ぶ者は其徳相當のものを得む。」其徳相當のもの！待つたりモロッコ、公平に自分の價格を測量つて御覽なさい。お前の價値附で評價したなら、無論

十分の徳があるが、それが果して此お姫に對して十分の徳といへるかどうか？ いや、併し、自分の徳を自分で危惧むのは、自ら卑うする劣弱な根性ぢや。おれの徳相當のもの！ こりや無論お姫に相違ない。おれは門閥に於てもお姫に相當し、財産に於ても、品位に於ても、育ち柄に於ても、就中、切なる戀愛の眞情に於て相當してゐる。もうこれで迷はんことにして、直に選んだら如何か？……待てよ、もう一度黄金に刻してある文句を見よう。「吾を選ぶ者は衆人の欲するものを得む」。はて、これこそお姫ぢや。世界中の者がお姫を欲しがつてゐる。地球の隅々から、誰れも彼れも、此活菩薩のお厨子に接吻しようとしてやつて来る。虎の住むヒルカニヤの荒原も、茫々たるアラビヤの大沙漠も、此頃では、ポオシヤ姫にあこがれ寄る貴公子等の往還も同然ぢや。天の面へ唾を吐きかける霸氣満々の大海原も、それら外國の貴族等の血氣を制へる關門とは能うならん

ポオシ  
さ、これをお取り遊ばせ。若しわたくしの像がその内にありましたならば、わたくしは貴下の所有です。

で、彼等かれらは小溝こみぞでも飛越とびこすやうに渡り越して、お姫ひめの顔かほを拜をがみに来る。……此三つの匣はこの一つに、神々かみかみしいお姫ひめの像ざうが入はいつてゐる。鉛なまりに入はいつてゐるらしからうか？ そんな下等げちなことは想像さうざうするさへも對當たいあたりぢや。鉛なまりなんぞは人目ひとめにかゝらん墓穴はかばなの中の棺くわんに用もちふるさへ、お姫ひめの場合ばあひには粗末そまつ過ぎる。では、銀ぎんの中に埋うづまつてゐると思おもはうかな、銀ぎんは黄金きんの十分の一の價格かかくぢやか？ 勿體むたいない！ かういふ結構けつこうな寶玉ほうぎよくが黄金きん以下の金屬きんぞくに嵌はめられた例たとひはない。英國イギリスの貨幣くわいはいに天使エンジェルの姿すがたを黄金きんへ打出うちだしたのがあるが、それは外面ぐわいめんに刻たくしてあるのぢや、これはそれとはちがつて、黄金きんの寢床どこの内部ないふに天人てんてんが臥ねておいでなさる。……鍵かぎを下ください。これを選びます、その結果けつぐわは如何どうあらうとも！

モロッコー金の匣を開ける。

モロッコ

おやく！こりやまあ何ぢや？  
嚙骸ぢや、空虚になつてゐる眼の中に  
巻いた書附が入つてゐる！  
読んで見よう。

讀む。

光り輝く者悉く黄金にあらずとは。

汝嘗て幾たびか聞きたるならん。

古來人あまた其命を賣りぬ、

只わが外面を看んと欲して。

知らずや金色に燦く墓も蛆蟲を包藏す。

汝若し鐵面皮なるが如く性賢明なりせば、

手足の若きが如く分別老成なりせば、

かくの如き返答は記入せられざりしならん。

さらばなり、汝の望は冷却し了んぬ。

冷却ぢや、全く。全くの徒骨折ぢや。大熱々はこれでおさらば、明日か

らは霜空のはじまり！……ポオシヤさん、さやうなら。長々とお暇乞を

する勇氣はありません。失敗した者は斯うして歸つて行くのぢや。

従者をつれて入る。コオネット盛奏。

ポオシ

あゝまあよかつた。……幕を引いておゝき。あゝいふ顔色の人たちは、み

んな選びそこなつてくれゝば好い。

みなくゝ入る。

第八場 エニス。街上。

サラリノとソラニオと出る。

サラリ だつてね、わたしは確かにバッサニオが帆の下にゐるのを見たよ。グレン  
アノも一しよに乗込んだよ。しかしあの船には、大丈夫、ロレンゾはゐや  
しなかつた。

ソラニ 猶人の奴め、怒號りたて、とうとう公爵さんを引張りだして、バッサニオ  
の船を検査に行つた。

サラリ ところが、行きかたが遅かつたもんだから、船は出てしまつた。併しロレ  
ンゾとジェシカとが遊山船の中に一しよにゐたといふことを公爵さんへお  
知らせした者があつた、それからアントニオさんも、二人はたしかにあの

船には居りませなんだと申しあげなすつた。

ソラニ あの猶人の畜生が街中でわめき立てたやうな、あんな滅茶苦茶な、あんな  
亂暴な、あんな出放題な怒號りかたは、わたしや曾ぞ聞いたことが無い。

「むすめやあい！ お、おいらの大事の金貨やあい！ お、おいらの大  
事の娘が基督信者と駈落しをつた！ お、おいらの基督信者の金貨を！

裁判してくれ！ 法律は無いのか！ おれの金貨を！ おれの娘を！  
封印をしておいた財囊を、封印しておいた二つの大切な金貨囊を、二倍の

金貨を娘に奪られてしまつた！ それから寶石を、二個の寶石を、二個の  
大切な、結構な寶石を娘に奪られてしまつた！ 裁判して下さい。娘を

サラリ 探し出して下さい。娘が寶石を持つてゐます、金貨を持つてゐます！  
だから、エニスちうの悪太郎どもが隨いて廻つて「おいらの寶石、おいら  
の娘、おいらの金貨」なぞと囃し立てる。

ソラニ

アントニオさんに注意して、約束の期限を間違へさせないやうにしないと、此八當りでもんでもない目に逢ひなさるだらうよ。

サラリ

成程いゝ御注意だ。きのふある佛蘭人に逢つたがね、その男の話によると、佛國と英國との間の、あの狭い海峡で以て、貨物をみつしり積込んだ我國の或船が難船したさうだ。わたしはそれを聞いた時に、すぐアントニオの事を思つて腹の中で、どうかそれがあの人のでなければいゝがと思つたがね。

ソラニ

そのことを早くアントニオに話したはうがいゝね。併しあんまり突然でなくね、どんなにか心配するだらうから。

サラリ

あんな深切な人は逆も又とは無いね、世界に。わたしはバッサニオとアントニオとが別れるのを見たがね、バッサニオが急いで歸つて来る積りだといふと、あの人は「いや、さうしないはうがいゝ。何もわたしの爲に肝腎

の事を中途半端にするには及ばん。十分事の成就するやうに機を俟つがいゝ。猶人に渡したあの證書の事なんかは、貴下の戀とは全く無關係の事にして、心を思ひ切愉快に持つて、一へに先方の氣に入るやう、又貴下の眞情を其場合に應じて最も都合よく發表するやうにお力めなさるがいゝつてね。さういつてゐる中に、あの人の目は涙で一ぱいになつたので、顔をそむけて、後向に手を出して、非常に感動してバッサニオの手を揮つて、さうして別れたよ。

ソラニ

あの人はバッサニオがあればこそ此世に生甲斐があると思つてゐるのだ。ね、二人であの人を捜して、齧ぎこんでゐるのを、何とかいつて慰めようぢやないか?

サラリ

さうしよう。

二人ともに入る。

第九場 ベルモント。ポオシヤ邸の一室。

家來をつれてネリッサ出る。

ネリッサ はやくよ、早くおしよ。幕を直お開け。アラゴンの殿さまがもう御誓約をお濟しになつて、すぐにお選びにいらつしやるのよ。

コオネット盛奏。アラゴンの君、ポオシヤ及び其従者等出る。

ポオシ 御覽遊ばせ、匣はそこにございます。わたくしの像の入つてゐるのをお選び遊ばせば、直にも結婚の式を執行いたします、併しお間違へ遊ばした場合には、何にもおつしやらないで直さまお出立遊ばさねばなりません。誓約いたしましたことは都合三ヶ條である。第一には、どの匣をわたしが選んだかを決して何人にも口外しないといふこと、次には、若しも正しい匣

アラゴ

を選び誤るに於ては、終生決して處女に對し、又と結婚を申し込まないと  
いふこと。最後に、若し運拙くして選び誤つたなら、速かにお別れして立  
去るといふこと。

ポオシ 其三ヶ條は、不束なわたくしの爲に此暗選をお試み遊ばすお方は、どなた  
も御誓約なされます。

アラゴ

わたしとても其様に覺悟いたしてをる。……どうか心願の叶ひますやう！  
……金と。銀と。粗末な鉛。「吾を選ぶ者は其有する總額を他に與ふる  
か若しくは危うせざるべからず」。おれに與へさせ、危うさせる爲には、  
もちつと美しい顔色をせにやならんわい。……金の匣は何といふ？ や！  
かうつと。「吾を選ぶ者は衆人の欲するものを得む」。衆人の欲するもの！  
此「衆人」といふのは、衆愚といふ意味かも知れん。衆愚は外見によつて  
物を選択する、おろかな目が教へる以上の事は知らん。内面へは目が及



ばんで、燕のやうに、外部の塀際の、雨風の當る處に巢を造つて、ゆき當りばつたりの生を營む。おれは衆愚の欲しがるやうなものを選ばうとは思はん、平々凡々の徒と歩を一にしたり、蒙昧な多數人と伍を同うすることを屑しとしないから。……さうなると、お前だ、銀の玉手箱どの。もう一度お前が附けてゐる題目を聞いて貰はう。「吾を選ぶ者は其徳相當のものを得む」。む、文句は好い。何故なれば、何等の徳もなく長所もない癖に、萬一を僥倖して名譽を得ようと試るなんぞは、不埒千萬なことだからなあ。其身不相應な僥倖な望は起さんが可い。あ、身分や爵位や官職が賄賂で得られるといふやうなことが地を拂つて、名譽は只一へに當人の潔白な功績によつてのみ買取られることゝなつたらばなあ！ さうなれば今命令してゐる者の中に命令される身分となる者が何人位あるだらう！

い！まがひもない高家の胤の中から、どのくらゐ百姓種の税が選分けられねばならんかも知れず、稗穀や塵芥の中から何程立派な代物が拾ひ出されて、新たに磨きをかけられることになるやら分らん！……併し選擇に取りかゝらう。「吾を選ぶ者は其徳相當のものを得む」。わたしは徳があると假定しよう。此匣の鍵を下さい。すぐにわたしの運命を開けて見よう。

銀の匣を開ける。

ホオシ

アラゴ

(傍白) そんなに手間をかけてお開けなさるほどのものぢやないのよ。  
こりや何だ？ しよぼく、目をしてゐる阿呆めが巻物をひろげて捧呈げてゐる書だ！ 読んで見よう。ポオシヤ姫とは似ても似つかん面附をしてゐる！ おれの希望とおれの徳とがこれほどに似つかんとは思はなんだ！ 「吾を選ぶ者は其徳相當のものを得む」。おれの徳は阿呆の頭以上には相當せんのか？ これがおれへの賞典か？ これ以上の徳はお

れにないのか?

ホオシ 違法と裁判とは、質の異つたお仕事ですから、御一しよに遊ばさないのが当然でございませう。

アラゴ 何が書いてあるか?

讀む。

七たび火は此器を鍛へり、

選んで誤らざらんとせば、

智もまた七たび鍛はざるべからず。

世には影坊師に接吻する者あり、

然るは只影坊師の恵を得んのみ。

我は知る、世に活ける阿呆あるを、

銀を以て外面を掩ふ。此者即ち是。

汝何者を迎へて妻となすとも、

我常に汝の素頭たらん。

去りねく。汝の事は果てたり。

こんな處にくづついてゐれば、ますます阿呆らしく見えるだらう。申込に來た時には、阿呆頭を一つしか有つてをらなんだが、歸りには二つになつた。……姫さん、さやうなら。約束を守つて、じつと此憤懣を辛抱します。

アラゴン 従者をつれて入る。

ホオシ 夏の蟲が、われから手燭の火で焼かれたわね。ほんとにまあ聰明さうな阿呆! ちやうど選びそこなふ役に立つだけの智慧しかないのねえ。

ネリッサ 「お刑罰と縁組とは運次第」といふ古い諺は、虚言ぢやございませんのね。ホオシ さ、ネリッサや、幕を引いておゝき。

家來出る。

家來

お姫さまは何處にいらつしやいます？

ボオシ

こゝよ。お殿さまが、何か御用？

家來

お姫さま、御門前へ、只今若いエニスの方が、お馬でお著になりました、御主人の御來著の前知らせにお越なされたのでございます。其御主人のお使物とございまして、種々有形の御挨拶と、申しますのは、御鄭重な御口上の外に、種々高價な御贈物をお持ちになりました。手前は曾ぞあゝい

ふ如何にも戀のお使らしいお使者を見たことはありません。今に結構な初夏の時候が来るといふ四月頃の日和も、此お使が其御主人の御來著を報せられますお使者振ほど快うはございません。

ボオシ

もうおよしよ。今にお前は、實は其男はわたくしの親戚の者でとか何とかいひだしさうよ、賞めるのにそんな餘所行言葉を使ふんだもの。さ、往

きませう、ネリッサ。わたしそんなに様子やうすの好い戀こひの急使はやうちは、如何どうな男をとこだか早く見みたいから。

ネリッサ (獨語のやうに) 戀こひの神かみさま、どうかそれがパッサニオさまでございますやう！

みなくゝ入る。

\* \* \* \* \*  
\* \* \* \* \*  
\* \* \* \* \*

第三幕

第一場 エニス。街上。

ソラニオとサラリノと出る。

ソラニ 時に市場に何か珍聞があるかね？

サラリ 相變らずあの噂が榮えてゐる、アントニオのみつしり積込んだ貨物船が海峡で難船をしたといふ噂が。たしか彼處はグッドキンズとかいふ處で、非常に危険な淺洲なんだ、あそこにや澤山の立派な船が埋葬されてゐるとい

ソラニ ふ噂だ、若し噂といふ鐵棒引が嘘をつかない山の神なら。

あゝその鐵棒引がね、例の蓋菓子を齧つて、近所の手前だけの涙を製造して、死んだ三人目の亭主を泣いてるのだと思はせるたぐひの大うそつきだと安心だけれど、事實だから困る。ところで、餘計な廻りくどい文句は一切ぬきにして、極平つたく、有りのまゝにいふとね、あの善良なアントニオさんは、あの正直なアントニオさんは——あゝ、如何いふ語を以てしても、わたしは迎もあの人の徳に相當する……

サラリ さ、さ、結末……

ソラニ え！ 何だつて？ 結末？ 結末は、あの人が船を失したんだよ。

サラリ どうかそれがあの人の不幸の結末であればいゝがなあ！

ソラニ 時後れにならないうちに、早速アーメンと言つておかうよ、惡魔めが祈禱の邪魔をしさうだから……見たまへ、奴猶人に化けて彼處へやつて來た

から。……

シャイロック 出る。

どうだね、シャイロック？ 何か珍聞は無いかね商人仲間？

シャイ お前さんがたは知つてゐなざる筈だ、誰よりもよく知つてゐなざる筈だ、わしの娘の飛走つたことを。

サラリ 違ひない。さういへば、わたしはあの娘さんの翼をこしらへた仕立屋を知つてゐるからね。

ソラニ さういやあシャイロックだつても、あの子鳥の羽が夙にもう生揃つてゐたのを知つてゐべきだ。羽が生揃へば親鳥を棄てるのは子鳥の癖だあね。

シャイ だから女めは罰當りだ。

サラリ 違ひない、悪魔自身が裁判をすりやあね。

シャイ 現在のおれの血や肉が謀叛を起すとは！

ソラニ 呆れつちまふせ、おい／＼！ いゝ年をして謀叛が起る？

シャイ いゝや、女めはわしの血でもあり、肉でもあるのだ。

サラリ とは思はれないね。お前の肉と娘さんの肉とは、黒玉と象牙ほどに異ふからね。血だつてさうだ、赤葡萄酒と白葡萄酒ほどに異ふよ。それはさうと、アントニオが海で損をしたとかしなないとかいふ噂を、お前は聞かないかい？

シャイ あゝ、あれもわしの損の卦だ。身代限りめ、浪費者め、あいつ今日びは、市へ面出しを能しない。つい此間までは取引所へ、めかしたてゝ出て來をつた劣を食め！ あの證書を忘れるな。あいつおれの事を常住高利貸だと悪口をつた。あの證書を忘れるな。あいつめ基督信者の仁義深切をいひたてに、いつも無報酬で金を貸しをつた。あの證書を忘れるな。サラリ だがね、無論あの何だらう、よしんば期限が切れたからといつて、お前、肉

シヤイ

なんか取立てやしまい。何の役にも立ちやあしまい？  
 魚を釣る餌になる。腹の満る役には立たんまでも、怨を晴らす役には立つ。あいつわしに恥を搔かせて、五十萬からの損をさせをつた。おれが損をすれば笑ひ、おれが得をすれば嘲弄し。おれの國の者をさげすみ、おれの商賈を妨げ、おれの友達へ水をさし、おれの敵を煽てをつた。何故そんなことをしをつたか？ おれが猶人であるからだ。猶人には目がないか？ 猶人には手がなないか？ 鼻や耳や口はなないか？ 四肢五體は？ 感覺は？ 好き嫌ひは、情慾は？ 猶人は基督信者と同じものを食はんか、同じ刃物で怪我をせんか、同じ病に罹らんか、同じ方法で治らんか、同じ冬を寒がり、同じ夏を暑がらんか？ おいらだつて、針で突かれりや血が出るわい。くすぐられりや笑はんでをられるかい？ 毒を飲まされりやあ死ぬまいかい？ なれば、侮辱されりや、復讐をしないであらうか？

他の事がお前がたと異はんけりや、それもお前がたに似てゐさうなものだ。若し猶人が基督信者を侮辱したなら、基督信者の表招牌の謙遜は何になる？ 只もう復讐だ。若し基督信者が猶人を侮辱したなら、猶人の持前の堪忍は、基督信者の先例によると、何になる？ 復讐でなくつてさ。邪曲非道はお前がたが教へてくれたからするのだ、だが、する以上は師匠以上にしてのける料簡だ。

召使一人出る。

召使 お二人さん、主人アントニオが、お二人さんにお目にかゝりたいと申して、宅でお待ち申してをります。

サラリ わたしたちも、さつきから、御主人をお探し申してゐたところだ。  
 チューバル出る。

サラニ 奴の一族がまた一人やつて来た。三人目には、悪魔自身が猶人に化けて

やつて来るかも知れない。

ソラニオ、サラニオ及び召  
使入る。

シヤイ

どうだねチューバル！ ジェノアか  
ら如何な知らせがあつた？ お  
前むすめに遇つたかね？

チユー

娘さんがゐるといふ噂を聞いた  
びに、其方角へ出掛けて見たが  
ね、どうしても目附からなかつ  
た。

シヤイ

そらくくくく！ いや  
くくくくくくく！  
金剛石をなくしてしまつた、



フランクフォルトで二千兩で買つた金剛石を！ こんな情ない災難は、曾  
ぞまだ猶太國民の身の上に落ちかゝつたことはないのだ！ 曾ぞまだお  
れは如是目にあつたことはないのだ！ あの指輪で二千兩、それから其他  
にも大切な大切な寶石。我兒め、おれの此足の下で斃死りをつてもいゝ  
から、耳に寶石を付けて戻つて来てくれい！ おれの足の下で葬式車に載  
せられてもいゝから、その棺の中にあの金貨が入れてあつてほしいわい！  
……え、何の手がかりもないか？ ちや、いや、いや、さうか！……どの位探  
索費に使つたか知れない。では彌々損の上に損の上塗だ！ 盗賊めがあ  
れだけ持つていつた上に、その盗賊を捜すために又これだけ費用をかけて、  
何の償ひも出来ず、腹懣も出来ず。おれの外には、世間に災難を身に受け  
る奴はないのか！ 溜息を吐く者は、世の中におればかりなのか！ 涙を  
流す者は、世の中におればかりなのか！

チュー なにね、世間にもいろく不運な人がありまさあ。わしがジエノアで聞いたところでは、あのアントニオがねえ……

シャイ え、え、何だとき？ アントニオが如何したとき？

チュー 貨物船をしてやられたげな、ツリポリスから戻つて来る途中でね。

シャイ ありがたい、ありがたい。事實か、ほんたうか？

チュー その難船で命拾ひをした水夫から聞いたのぢや。

シャイ チューバルさん、ありがたう。いゝ知らせだ、いゝ知らせだ！ はゝはゝ

はは！ 何處で聞いたね？ ジエノアで？

チュー そのジエノアでね、わしが聞いたには、娘さんが一晩に八十兩つかつたげな。

シャイ あゝ、此胸を貫かれるやうだ。もう逆もあの金は手に戻らん。一場所

八十兩！ 八十兩！

チュー アントニオの債主連が、わしと一しよにエニスまで同行しましたがね、あ

シャイ の男は逆ももう、破産するより外にしかたはあるまいと言つてました。

ありがたい。うぬ痛めつけてくれる、責めさいなんでくれる。そいつは

ありがたい。

チュー その債主連の一人がわしに指輪を見せたがね、それは娘さんが小猿一疋と

交換つこにしたのぢやげな。

シャイ 畜生！……チューバル、そりやおれをさいなむといふものだ。あれは大切

もない土耳其玉だ。おれがまだ獨身でゐたころに、死んだ妻から貰つた

のだ。猿の千疋や萬疋に代られる代物ぢやないのだ。

チュー 併しあのアントニオは、ありや屹度身代限りになりをるに相違ない。

シャイ むゝ、そりや全くだ、全くのこつた。チューバル、お前往つて役人を備つて

おいてくれ。二週間以前に頼んでおいてくれ。期限が切れたら、あいつ

の心の臓を取立てゝくれる。あいつさへエニスにをらんければ、おれが



如何な營利でもすることが出来る。さ、チューバル、出かけさつしやい、さうして祈禱會で又逢ふことにしよう。さ、チューバルさん。祈禱會であふことにしよう。

二人とも入る。

第二場 ベルモント。ポオシヤ邸の一室。

パッサニオ、ポオシヤ、グレシヤノ、ネリッサ及び侍者等出る。

ポオシ

ま、お待ち遊ばせ。お選び遊ばす前に、せめて一日か二日御猶豫なさいまし、何故なれば、若しお間違へ遊ばすと、お別れせねばなりませんもの。ですから、ま暫らく、お待ち遊ばせ。何となくわたくしはいつまでも御

一しよにゐたいのですの、でもこれは愛ではありません、けれども憎悪は決してかういふ感じを起させるものでないといふことはお解りでございます。とにかくわたくしが十分お解りにならないやうなことがあつてはなりませんから、——けれども處女の身では、どうしても思ふことが口へは出せませんから——いよくお選び遊ばすまでに、せめて一月か二月お留申しておきたいのです。どの匣を選ばよいかお教へすることも出来まますけれど、さうしては誓言を破らねばなりません、ですから申さない、ですから貴下がお間違へ遊ばすでせう、さうなつた時には、あゝ誓言を破ればよかつたといふやうな大それたことを思ふやうになるでもありません。怨めしいは貴下のお眼です、其お眼のためにわたくしの心は二つになつて、半分は貴下の有、それから残つた半分は貴下の有、ではない、あのわたくしの有なのですけれど、わたくしの物は貴下の者なのですから、つまり悉皆

貴下の有なのです。あゝ正常な所有主に其の権利を與へないといふは何といふ不正い世の中でせう！ さういふ世の中ですから、或は貴下の有でありながら貴下の有になれないかも知れません。萬一さうなつた時には、それは運命の故で、わたくしの罪でないとおぼしめして下さい。こんなにお饒舌をいたしますのも、實は、成るべく時間を延して、長びかせて、お選び遊ばすのをお止申したいからです。

バツサ どうか早く選ばせて下さい。かうしてゐるのは、まるで拷問臺にかけられてゐるやうな心持ですから。

ボオシ 拷問臺にかけられてゐるやうなとおつしやいますの！ では貴下の御愛情には何か二心がお有り遊ばすのでせう、白状なさいまし。

バツサ 此戀成就するや否やといふ可厭な疑惑の二心があるばかりです。もしわたくしの愛情に二心なぞが伴ひ得るなら、雪が火に伴ひ得るでせう。

ボオシ ですけど、拷問臺にいらつしやるから、それでさうおつしやるのぢやないことり？ 拷問されると、人は心にもないことを申すものでせう？

バツサ 必ず助けるとお約束なすつて下されば、眞實の事を白状ませう。

ボオシ 白状なされば助けてあげます。

バツサ 「白状すれば、… 憧れてをります」といふより外はありません。あゝ、責めさいなまれても嬉しい、責めるお役人が斯ういふ命の助かる返答を教へてくださるのですから！… さ、とにかく匣のある處へ。運命を試みませう。

ボオシ では、あちらへ！ あのうちの一つにわたくしの像が入つてゐます。若し貴下がわたくしを愛して下さいますれば、きつとお中になりませう。… ネリッサや他の者は悉皆離れておいで。(皆々退く)。あの方がお選び遊ばす間奏樂をお命じ。さうすれば、萬一御運の拙かつた時分に、其音樂に送

られて影をお隠しになれば、取りも直さずそれが白鳥の最期の歌とも聞か  
れませう。——それだけでは比喩が不具ぢやとおいひなら——私しの目か  
ら溢れる涙川が、其水鳥の丁度好い死場所になりませう。けれど若しお  
中遊ばしたら、音楽は如何いふ役に立つであらう？ その時には、音楽は、  
新に御即位遊ばす天皇を賀し奉る臣民の奏樂になるのです。婚禮の日の  
明方に、また夢心地でゐる花婿を呼醒して儀式の席へ伴れてゆく、そのな  
つかしい楽しい音楽になるのです。……あれ、今お進みなさる。……昔トロ  
イ王が涙ながらに最愛の姫君を海の怪物の犠牲にお献げなされた時、年の  
若いハーキュリーズが難なくそれを取返しなされた其お姿にも負けない  
立派さぢや、其上、親切なお情立はハーキュリーズどころではない。わた  
しは取も直さず其犠牲で、あそこに立つてゐる女共は、トロイの市の女房  
共ぢや、めいゝ娘を奪られて、泣きはらした貌をして、勇士の手際を見よ

うために、海岸へ出て來てゐるのぢや。……さ、ハーキュリーズさん！ お  
前が死ねばわたしも死ぬ。戦をなさるお前よりも戦を見てゐるわたしの  
ほうが、どの位辛いか、怖いか、おそろしいか知れない。

音楽。其間にパッサニオ肚の中で匣を批判してゐる思入。

唱歌。

浮いた情は何處許で育つ？

心の臓でか、頭腦の中でか？

如何して生れた、何として育つた？

聞かしや、聞かしや。

浮いた情は目の中で育つ？

眺めくつて肥りはすれども、

生れ故郷で臥たまゝ死ぬる。

浮いた情の弔ひ鐘を

鳴らそ、鳴らそ。 デイン、ドーン、ベル、。

みなく (聲を揃へて) デイン、ドーン、ベル、。

パッサ

全くその通りに、目に訴ふことをのみ主とするものは内容の乏しいもの  
ちや。 とかく世人は虚飾に欺かれる。 法律上に於ても、如何な非道邪曲  
な訴訟と雖も、巧辯を以て美しく辯護すれば、其罪惡は掩はれて見えない。  
宗教上に於ても、どんな墮地獄の大不埒と雖も、嚴肅な面附の老僧が經文  
を引いて有がたげにそれを祝福すれば、其穢さが美しく隠されてしまふ。  
どんな惡徳も幾らかづゝ外面には美徳の徴を見せびらかしてゐる、それを  
せぬやうな、そんな單純な惡徳は世の中には無い。 心は砂で築いた階段  
同様でありながら、願にはハーキュリーズやマーゾ神の虎鬚を生やしてゐ  
る奴が何位あるか知れない。 内面を探ると、そいつらの肝の臟は乳のや

うに白い、しかも強者らしく見せようが爲に、表面だけ勇者の飾を附けて  
ゐる！ 美人を見い、美といふものもまた目方で賣買が出来る。 目方が  
不思議な作用をして天工を欺く。 首に紅白粉の重い目方が加はるほど其  
女が、軽々しい浮薄な女となるのが定例ぢや。 あの蛇のやうに縮れた金  
髪も、風に戯れてみだりがはしく波打つあの金髪も、一見如何にも美しく  
見えるけれど、検査べて見ると、實は他人の遺産なのぢや、その金髪を育て  
た頭蓋骨は、今は墓穴の中にをさめられてゐる。 して見ると、粧飾といふ  
ものは、危険な海へ人をさそふ燦々濱邊ぢや、西印度の夷女を美しく見せ  
る美麗な面帕ぢや、つまり狡猾になつた世間が、聰明な者をもおとしけれ  
ようとする見たとこだけの實ぢや。 だから燦爛たる黄金よ、マイダス王  
が食ひかねた食料の黄金よ、おれは汝を取らん。 また汝をも取らん、蒼白  
い顔をして、人と人との間の小使役に駈り使はれる銀よ。 併し(鉛の匣に)



おのしは——耳ざはりの好いことは言はないで、寧ろ他を威すやうなことを言つてゐる見かけのわるい鉛の匣——おのしの飾りけのない言分が、能辨なのよりもおれの氣に入つた。これを選ばう。どうぞ喜ばしい結果の得られますやう！

ホオシ

(傍白) もう／＼他の感じは、どれも／＼みんな／＼忽ちのうちに消えてしまつた——疑ひも失望も慄へてゐた杞憂も淺はかな邪推嫉妬も！……お、戀よ、程を守るのぢや、程を、逆せてはなりません、程よく喜を降して下さい。度を過ぎてはなりません。あ、あんまり嬉し過ぎる。もつと少なくて下さい、わたしや嬉しさに傷りさうぢや。

バッサ

鉛の匣を開きて

お、美しいポオシヤ姫の肖像！ ま、何といふ神のやうな名畫工なれば

こそ是程までに天工に逼ることが出来たぞ！ や、此眼は動くのか知らん？ それともおれの瞳に映るので、動くやうに見えるのか？ 甘い呼吸が通つてゐるらしい此唇、かういふ息が通へばこそ此美しい唇も開くのであらう。頭髮を畫く爲には、畫工が蜘蛛の眞似をして、金絲の綱を編みをつたわい、蜘蛛の巣が蛎を取るよりも尙しつかりと男の心を捕へさせる魂膽ぢやな。が、それよりも此目附——畫工は如何してこれを畫き了つたか？ 此目を一つ畫いたならば、畫工の兩眼はそれが爲に恍惚となつてしまひ、残つた一眼を畫くことは出来なからうと思ふに。が、併しへとボオシヤと見くらべ、わしの賞讃の實質が此肖像の美に遠く及ばんと同じやうに、此肖像は御本體の美には遠く及ばん。……こゝに卷物がある、これがわしの運命の要目ぢや。

讀む。

汝は外見によりて選ぶことをなさず、

ゆるにたま〜、正當の選擇をなせり。

かゝる幸運の汝に歸したる以上、

足ることを知りて又求むる勿れ。

汝若し之を以て満ち足れりとなし、

此運命を以て天福なりと信せば、

汝の姫が今立てる處に進みて、

愛の接吻を以て妻たれと求めよ。

あゝ粹なく書物。……お姫さん失禮ながら。(と接吻して) お許可の書面

通りに、接吻を献じて、貴下をお受取に参りました。併しながら、譬へば

一生懸命に競技に熱中してゐる者が、自分では首尾よくやりおほせた積り

でゐても、公衆が一齊に喝采するのを聞くと、頭がくらくくとなつてしま

つて、今の喝采は、或は自分を賞めたのではなかつたかと疑ひ感つて、ぼんやり目を見張つて突立つてゐるやうに、わたくしも丁度そんなやうな心持なのです。わたくしはまだ目の見る所を疑つてゐるのです、貴下が慥かに其通りだと確證して奥印を押して下さるまでは。

ホオシ

パッサニオさま、わたくしは只今御覽遊ばす通りの、只これだけの者なのでございます。わたくし自身としては、今の身の上以上にならうといふ如何いふ大望もないのですけれど、貴下のお爲を思ふと、今よりも二十倍も六十倍も偉くなりたいと思ひますの、千倍ももつと美しくなり、一萬倍ももつと富有になりたいと思ひますの。——只もう貴下に重んじて戴きたいためばかりに、才徳をも容貌をも財産をも友達をも、量りきれないほど立派にしたいと思ひますの。けれども今のわたくしは、何もかも取集めましても、つまり何にもならないものばかりなのです、ない盡しなのです。

教育のない、しつけの無い、訓練のない女なのです。たゞ幸福なことには、もう教へたつても習ふまいと思はれるほどには年を取つてをりませんし、尙幸福なことには、習ひ得ないほど愚鈍にも生出つてをりません。最も幸福なことには、柔順な性質ですから、何事でも貴下のお指圖は、殿さまから、御領主から、國王から承はるこのやうにして遵奉いたします。わたくし及びわたくしの財産は、今から貴下の御所有に移すのです。つい今までは、わたくしが此邸の主君であり、家來共の主人であり、自身の女王でもあつたのですけれど、今から直に、此邸もこれらの者共も、此わたくしみづからも、貴下の御所有となるのでございます。此指輪をお引渡しの證據といたします。萬一にも貴下が此指輪をお棄遊ばすか、おなくし遊ばすか、他人にお遣り遊ばすやうなことがあれば、それは貴下の御愛情の亡びた兆候でございます、きつとお怨言を申立てます、さう思しめして下

バツサ

さいますし。

お言葉に對して、何とももう申すことが出来ません、只もう此五體中に沸立つ血が御返辭なのです。わたしの感覺や知覺は混亂してゐます、譬へば人望のある君主が巧みな演説をせられた時分に、公衆が満足して、最初は各自小さい聲で何か喜んでゐるが、その各自の喜びの聲が最後には雜然になつて、表白すと表白さんと係らず、只もう喜んでゐるといふとだけは確實だが、何が何やら分らない大混亂となつてしまふやうに、わたしは只もう嬉しいのです。とにかく此指輪を、萬一にも此指から離すやうなことがあれば、此命も此處から離れます。すなはち必ずバツサニオはもう生きてゐないのだと思つて下さい！

ネリッサ

殿さまと奥さまとへ申しあげます。先刻から差控へをりまして、どうか御良縁のお調ひ遊ばしますやうにと願つてをりました私共が、もうお目出

たうを申します場合かと存じます。殿さま、奥さま、おめでたうございませす。

グレシ

御前バツサニオさま、え、姫君さま、お二方とも御存分のお喜びを御享樂あらんことを祈ります、小生の存じ寄りもお二方の御存じ寄りも別々とは存じませんから。随ひまして、お二方の御婚禮式がいよく御實行と相成りまする場合には、どうかわたくしにもまた結婚式を擧げることが御許容願ひたいと存じます。

バツサ

よろしいとも、その心當りさへあるなら。

グレシ

ありがたうございます、既に心當りが一人あります。わたくしの目も貴下のお目と同様に随分機敏に活動しました。貴下が姫君を御覽の間に、わたくしはお腰元に目を附けました。貴下が戀をなさる、わたくしも戀をしました。つまり貴下も氣早だが、わたくしも氣早なのです。貴下の



運命は、一へに懸つて其匣にあつたんですが、わたくしの運命も、實際のところ、あの匣に引懸つてゐたのです。如何となれば、わたくしは此處で、汗の出るほど辯を費し、上願の干上るほど種々の誓言をして、やつと此處にゐる此美人から斯ういふ約束を得ました——約束が果して永續するものでありますなら——即ち若し貴下の御運がよくつて姫君と御夫婦にお成りになるやうであつたら、此婦人もまたわたくしと夫婦にならうといふ約束なんです。

ホオシ

ネリッサ、それは眞實かい？

ネリッサ

お姫さま、御意にさへ叶ひますれば。

バッサ

グレシヤノ、君は全く誠意なのですか？

グレシ

はい、全く誠意なのです。

バッサ

わたしらの祝宴が更に光榮を加へる譯になる、君らの結婚式を兼ることが

出来れば。

グレシ

(ネリッサに)ねえ、千兩賭けて、眞先に男の子を生む競争をお二人としようぢやないか？

ネリッサ

強壯？ といふのは丈夫といふこと？

グレシ

勿論！ 強壯でなくつて子が出来るものかね。……や、だれだかやつて来た。ロレンゾと猶人の娘ぢやあないか？ おやく、おれの親友の、エニス、のソラニオぢやないか？

ロレンゾ、ジュシカ及びエニスよりの使ひとしてソラニオ出る。

バッサ

これは、ロレンゾとソラニオ、ようこそ。いや、わたしはまだ昨今の身だから、主人貌をするのも如何はしいが。……ポオシヤさん、失禮ですが、わたしの國人であり親友である人達を歓迎しますから、お許し下さい。わたくしも歓迎いたします。ようこそおいでなさいました。

ポオシ

ロレン

ありがたうございます。實はわたくしは、貴下に此處でお目にかゝらうとは思ひがけませんでした。けれども、途中で、ふとソラニオさんに逢ひましたところ、是非一しよに來いとおつしやいましたので伺ひました。

ソラニ

全くでございます。それには理由のあることです。……アントニオさんから宜しくと申されます。

「バツサニオに書状を渡す。」

バツサ

此書面を開封する前に、アントニオ君は如何な様子です、何も變りはないか、それを聞かせて下さい。

ソラニ

さ、お身體には何も別條はありません。とにかく精神はしつかりしておいでになります。くはしいことは其御書面でお解りになります。

グレシニ

ネリツサ、あの婦人に愛想をなさいよ、手持無沙汰さうだから。……ソラニオ君、暫く。(握手して) エニスに何か變つた事でもあるかね? 御大將ア

ントニオさんは如何してござるね? われくの成功を聞きやあ、大將きつと喜んでくれるだらう。われくはジエスンだ、首尾よく金毛の羊の毛皮を手に入れたよ。

ソラニ

(獨語のやうに) 出来るものならあの人の失した金の毛皮を手に入れてくれよばよかつたになあ。

ボオシ

(バツサニオの様子に目を附けて獨白) あの書面の中には、何か不祥な事が書いてあるのに相違ない、バツサニオさんの顔の色が蒼白になつた。



大事のお友達でも亡なつたのであらう。さうでもなくば沈著な男子の心を決してあのやうに惑亂させる筈はない。

おや、なほど様子がわるい！（パッサニオの傍へよりて）失禮ですがパッサニオさん、わたくしは貴下の半身であるのですから、其御書面に何が書いてあるか存じませぬけれど、半分ほどは是非わたくしもうけたまはる権利があると思ひます。

パッサ

あゝ、ボオシヤさん、こゝに書いてある數行の文字は、曾て紙を染めた最も不快な言葉なのです！ 姫さん、わたしが最初貴下に申入をした時分に、わたしは聊かも包み藏さずお話しした、わたしの財産はわたしの血管中に流れてゐるものより外には何にもない、ほんの一紳士たるに過ぎない者だと申しておいた。さうしてそれは全くの事實でした。しかし姫さん、わたしは無財産の者だといつたのは、今になつて見ると、まだ大變な虚言者であつたのです。無一物だと申した時分に、實は、無一物よりも尙わるい境遇だと申すべきでした。何故なれば、實は旅費其他を得るために、親友を

ソラニ

わづらはして、其仇敵たる者から金子を借入れさせたのです。こゝに書面があります。此書面は其信友の肉體そのまゝ、書いてある一語々々が口を開いてゐる傷口のやうに、生血を迸出らせてゐるのです。……しかしソラニオ、これは事實かい？ アントニオの船は悉皆破船したのかい？ え、一艘も助からない？ ツリポリスからも、メキシコからも？ え、英吉利からも、リスボンからも、バーバリーからも？ え、印度からも？ たつた一艘さへも、怖い暗礁にぶつゝかるのを免れなかつたのか？ はい、一さうも。そればかりでなく、今更アントニオさんが、よしんば現金で返済しようといはれましたも、猶人の奴は最早受取らんといつてをります。人間の皮を被つてゐて、あんな残忍な、人殺し根性で固つた奴は、曾ぞ見たことがありません。彼奴は朝に晩に公爵さまをせがんで、若し此裁判をして下さらんやうぢや國家の法律は無いも同然だと罵ります。

二十人からの大商人衆、公爵御自身、其他貴顯方が種々と奴を御説得になりましたが、奴は飽迄も證書面通り是非科料を貰ひたい、是非裁判を下さいと執念深く申し立てゝをります。

ジエシ

わたくしが父と一しよにをりました時分に、父は同國人のチューバルやチューリスなぞに、おれはアントニオに貸した金子を二十倍にして返されるよりも彼奴の肉の方が欲しいなんて毒づいてをるのを聞きました。(バツサニオに) 殿さんへ、若しお上のお力で、法律で以て何とかなさいませんければ、アントニオさんとはんだ目にお逢ひなさいませうと存じます。

ボオシ

御難儀なすつてゐらつしやるのは、貴下の御親友なのですか?

バツサ

わたしの最も大切な友人なのです、極めて深切な、最も高尚な、信義を行つて曾て倦み疲れることを知らない、實に伊太利に於ける如何なる人よりも、最も多く古昔の羅馬人風の氣高い精神を有してゐる男なのです。

ボオシ

その方が猶人からお借になつた額は如何程です?

バツサ

わたしの爲に、三千兩。

ボオシ

え、それつきりですか? 六千兩にして返済して、其證書をお消しなさい。六千兩を倍にしても宜い、場合によつてはそれを三倍にしたつても差支ありません。さういふ御信友が頭髮一筋でも、バツサニオさんの爲でお失しなざるやうなものがあつてはなりません、先づ早速教會堂へ一しよにいらしつて、わたくしを妻と呼んでおいて、それからエニスの御信友の處へお出立遊ばせ。お心に煩ひがあるのに、こゝにボオシヤの傍にお留り遊ばすべきでないと思ひます。そんな些細な負債は、二十倍にしてお拂ひ遊ばすやうに、金子をお渡し申ませう、お支拂が濟んだら、御信友をお伴れなさいまし。それまでは、腰元のネリッサとわたくしは、處女や寡婦の生活をしてをります。さ、早う參りませう! 結婚式の其日に御出立といふ

のですから。ね、御友人がたをおもてなしなさいましな、陽氣なお顔を遊ばせよ。貴下は苦勞してお迎した方ですから、大事に〜しますわ。が、ま、其御書面をうけたまはりませう。

バツサ

(讀む)バツサニオ君足下、吾等の船舶は悉く難破したり、債主等は次第に苛酷となりぬ、小生が境遇は全く逼迫せり、猶人に對する證書は既に其期限を越えたり。之を拂ふに及びては吾等は生存し能はざるべきが故に、願はくば最期に只一目貴君に見えんことを、然らば貴君と吾等との間に最早何等の相負ふ所もなく思ひ残す所もなからん。併しながら便宜に任せらるべし。自ら好んで來らん意あるにあらずば、我書をして貴君を強ひしむる勿れ。

ボオシ

お、何事を棄て、おいても、御出立遊ばせ。

バツサ

貴下の快諾を得た以上は、急いで出立ませう。併し、歸つて參るまでに、

決して必要のない床に一日でも多く眠るやうなことはありますまい、無要な逗留に二人の面會を延引させるやうなことはありますまい。

みな〜入る。

第三場 エニス。街上。

シャイロック、サラニオ、アントニオ及び監守。

シャイ

監守さん、あいつに御注意なさい。……え、慈悲の話は御免だ。……あいつは金を只で貸す馬鹿者です。監守さん、よう注意なさい。

アント

シャイロックどん、ま聴きなさい。

シャイ

證書通りにして貰ふんだ。取消せといったつて、無駄だ〜。わしは是

非證書の通りになると誓言をしたんだ。お前は何の理由もないのに、おれの事を犬だといった。が、犬だから牙の用心をするが可い。公爵さんは、きつと裁判してくださるだらう。……何だつてお前さんは、こんな奴の頼みを聴いて外出を許したんだ、甘過ぎるよ、監守さん。

アント どうか、ま、わしのいふことを聴いてくれ。

シャイ 證書通りにして貰ふんだ。聴きたくないではお前のいふことは。證書通りにして貰ふんだ。だから最早言はつしやるな。おれは基督信者共の中裁なんぞを聞いて、頭を振つて、溜息を吐いて、我を折るやうな、そんな骨無し、泣つ面の阿呆扱ひにされたくないのだ。え、追いて来なさんな。もう問答は否だ。證書通りにするんだ。

シャイ ロック 入る。

サラリ

人間と一しよに接んでる奴で、あんな頑固な犬畜生はありやあしない。

アント

うつちやつておゝきなさい。

もう後を追ふまい、頼むのは無用だ。あいつはわたしの命を欲しがつてゐるのだ、其理由はよく解つてゐる。わたしは折々歎願かれて、あいつに科料を取られようとした多数の人を救つた。だからわたしを怨んでゐるのだ。

サラリ

大丈夫、公爵さんは、此度の科料なんかお認可になる筈はあ  
るまいと思ひます。



アント

公爵さんだつて法律の明文を拒むことは出来ない。何故なれば、外國人が此エニスで有する正當の權利を拒否せられるやうでは、國家の政道が立たん譯になる。此國の商業上の利益は諸外國との貿易で以て成立つてゐるからね。だから、さ、行きませう。此頃うちの苦勞や損失で大分瘦せたから、明日残酷な債主へ拂ふ一ポンドの肉がおぼつかない位のものだ。……さ、監守さん、往きませう。どうぞパッサニオが負債を拂ふまでに間に合つてくれ、ば可いが、さうなればわたしは何も心残りはない。

みなく入る。

第四場

ベルモント。ポオシヤ邸の一室。

ポオシヤ、ネリッサ、ロレンゾ、ジエシカ及びバルサーマー出る。

ロレン

奥さま、お前で申しては何でございますが、貴下は友誼の神聖といふことに就いて、全くお立派な正しいお考をお持ち遊ばしていらつしやると存じます、そのお心持は、殿さまの御不在をじつと御辛抱遊ばしますのに善く見えてをります。併し若し貴下が此御厚情をお盡しになりますのは、何方の爲であるか、其方がどれほど大切な殿の御信友であるか、どれほどお立派な紳士でおありなさるかを御承知になりましたなら、尋常一様のお義理立とは違ひまして、お盡し榮のあるお務と御自慢遊ばしてもよいとおぼしめすでございます。

ボオシ

わたしは曾て善い事をして悔んだことはない、この後もさうでありませう。平生兄弟のやうに相敬愛する親友といふものは、容貌にも立振舞にも氣質にも、必ず何處か似た處のあるものですから、私は、アントニオといふ人が夫の心友である以上、きつと夫に似てゐるに相違ないと思ひます。若し果してさうであれば、私の費した費用は言ふに足りません、自身の魂に似た方を焦熱の苦みからお救ひ申したと思へば！ が、かういふと何だか自慢のやうだわ。もう此話は止ませう。他に話すことがありません。ロレンゾさん、わたしは夫の歸られるまで、此邸の監督をお前さんにお任したいのです。さうしてわたしは、内々天に祈誓をかけて、こゝにゐるネリッサだけを伴れて、夫の歸られるまで人を避けて、静かにお禱をしてゐることに決めました。二哩ほど離れた處に庵室があります、そこに當分ゐることにします。どうか辭退しないで下さい、これはお前さんを愛する

爲でもあり、二つには或止むを得ない事情があつてお頼みするのですから。

ロレン

承知いたしました。正當のお吩咐である以上は、どんな事でも仰に従ひます。

ボオシ

邸の者は最早とうにわたしの意を知つてゐますから、バッサニオどのとわたしの代りにお前さんとジェシカさんを主人と思ひますでせう。では、また逢ひますまで、御機嫌よう。

ロレン

御機嫌よろしう、御安泰に往つていらつしやいませ！

ジェシ

奥様、何事も御満足にお過し遊ばしますやうお祈申してをります。

ボオシ

ありがたうよ、わたしの方でもお前さん方に其通りを祈ります。さやうならジェシカ……

ジェシカとロレンゾと入る。



さ、バルサマー。(バルサマー進む)。お前は年來正直に奉公してくれましたが、改めて骨を折つて貰ひたいことがあります。此書面を持つて大急ぎで、バデユアまで往つて、之をわたしの親戚のペラリオ博士に手渡ししておくれ。それから、可いかい、博士がお前に渡す一切の書類や衣服を受取つて、どうぞね、出来るだけ急いで、あのそら渡し場まで持つて來とくれ、エニスへ通ふ彼の渡し場までよ。かれこれ言つてゐないでね、すぐ出掛とくれ。お前より先に彼處へ往つてゐるから。

バルサ 奥さま、出来るだけ急いで参ります。

バルサマー 入る。

ボオシ さあ、ネリッサ。わたしやお前さんのまだ知らない差迫つた仕事があるのよ。わたしたちは今に所天に逢ひますよ、先方では思ひも附かないうちに。

ネリッサ 先方もわたしたちの顔を見ますんですか？

ボオシ あ、見るのよ。けどもね、わたしたちは妙な扮装をしてね、平生は持つてゐないものを飽迄持つてゐるやうに見せかけるの。賭をしてもいゝことよ——お前とわたしが青年の服装をして行くんだがね——きつとわたしの方が活潑で以て、小意氣なの、短劍の附け具合なんかも品がよくつて



ね、それから聲は聲變り前といふ調子で話すの、びいゝ聲よ、それからちよこゝ歩きなんかはしないでね、大股に歩いて、大口を叩く小綺麗な青年のやうに、喧嘩をした話をしたたり、事

實らしい嘘を吐いたりするの。やれ、何處々々の令嬢が戀慕したけれど撥附けてやつた、するとだれへは戀煩ひになつて死んだ、だつて如何もしかたがなかつたとか何とか。それからまた後悔してね、さうはいふものゝ、あゝ殺さなげやよかつた何て言ふのよ。さういふやうな詰らない嘘を二十も三十もしやべるの。それを聞けば、人はきつとわたしは學校を出てから十二ヶ月以上たらうなんぞといふでせう。わたし然ういふ高慢ちきな惡太郎共の青い仕草は、幾らでも知つてゐるから、行つて見ようと思ふの。

ネリッサ まあ！ では私しも男にされるのですかり！

ボオシ あれさ、ま、何といふ物の言ひかたです！……さ、ゆきませう、馬車に乗つてから詳しい事は話ませう。車は園の門口に待つてゐます、だから急いで往きませう。今日のうちに二十哩行かなければならないから。

二人とも入る。

第五場 同處。庭園。

ランス ロットとジェシカ。

ランス あゝ、全くだ。何故つて、可いかね、親父の罪は子に報うつてからね。だから大丈夫、貴下は危いよ。わたしや貴下に對しては遠慮しない流義だから、思ひついた事は正に憫然と忠告してあげるんです。だから安心していらつしやいよ、貴下は大丈夫地獄に墮ちるからさ。それを助かりさうな望つてば、たつた一つしかないね。その望さへも、實は賈物でさ。

ジェシ どんない望り。 ねえてば?

ランス さあ、貴下は或はお父さんの子ぢやないかも知れん、猶人の女ぢやないかも知れんて望でさ。

ジェシ 成程それぢやあ賈物だわね。 さうなるといふと、またお母さんの罪がわたしの身に報うかも知れないわ。

ランス いかさま、すると貴下は、父方から言つても、母方から言つても、地獄に墮ちるらしいねえ。 前門にお父さんを防ぐと、後門にお母さんがやつてくるといふ譯だね。 ぢやあ、どつちも駄目だ。

ジェシ いゝわ、わたし所天に救つて貰ふから。 所天はわたしを基督信者にしてくれたもの。

ランス いかさま、いよく以て御亭主は不埒だね。 在來の基督信者だけでも多過ぎて、一しよに暮すには困る位のもんだ。 そこへ以て來て、基督信者を

殖したり何かすれば豚の値が高くなる。 みんなが豚を食ふやうになると、今に金を出したつても、急炙の一片にありつくことも出来なくなるだらう。

ロレンツ 出る。

ジェシ ランスロット、今お前さんの言つたことを所天にいふよ。 あれ、あそこへ來たわ。

ロレン ランスロット、おれが焼餅を焼くかも知れんよ、おれの女房をそんな隅つこへ伴れていつたりなんかすると。

ジェシ いゝえ、ロレンツ、その心配には及びませんのよ。 ランスロットとわたしとは喧嘩してるの。 彼は露骨に言ふの、わたしは猶人の女だから、天のお慈悲は少うしも無いつて。 それから彼がね、貴下は社會の爲に善くない人だつて、猶人を基督信者に改宗させたりなんかして豚の値を高くするか

らつていふの。

ロレン ランスロット、お前が女黒人に乗つかつたよりやあ、夏然社會の爲になるよ。  
ランスロット、お前はあの黒人を懐妊ませたね？

ランス 懐妊んだといやあ、無論赤兒を産むんだらうが、黒坊にして赤坊を産むてのは、無論甚だ胡亂な話だ。

ロレン 阿呆の癖に口が減らない！ 今に一番聰明な人は、何にも言はないやうになり、饒舌るのは鸚鵡の外は賞められないことになるだらう。……こら、早く彼方へ往つて、食事をする準備をしておくやうに吩咐してくれ。

ランス そりやとうに出来てますよ、みんな胃囊を有つてますからね。

ロレン おや、つまらない揚足を取るね！ ちや食卓の準備を吩咐けて下さい。

ランス それも出来てますよ、へい。たゞまだカヅつてないんで。  
(ナイフや肉叉を食卓に備ふることをカヅといふ。専門語なり。)

ロレン ちや、どうかカヅつてくれ。

ランス 冠るわけには参りませんね。身分柄を存じてをりますからね(と帽子をひねくる。)

ロレン まだ駄洒落を言つてるのかい！ 有つたけの智慧を一時に見せびらかさうといふのかお前は？ おい、頼むよ、真面目な人間には真面目で物を言つて貰ひたいね。お前の仲間の處へ往つて、食卓にカヅをして、それく食物を盛つておくと吩咐してくんな、今に食事をするから。

ランス へい、それでは食卓の儀は速かに盛はせます、お食物の儀はカヅさせます、そこでお食事に御入來の儀は、へい、御氣分次第、御意次第。

ランスロット入る。

ロレン おやく、ま何て結構な智慧だらう、あの言葉の使ひざまは如何だ！ あの阿呆め、駄洒落を一大隊も諳え込んでゐやあがる。随分彼よりも身分

の 高たかい手合てあひの中なかにも、彼奴あいつ同様どうやうに、曖昧あいまいな兩義語りやうぎごを使つかつて、意味いみには重おもきを置おかないで濟すましてゐる阿呆あほうが幾いくらもある。……ジエシカさん、どうしたね？

ジエシ

ねえ、お前まへ、如何どう思おもふね、バッサニオさんの奥おくさんは氣きに入いつたかい？

何なんとも言いへない程ほどによ。バッサニオさまは、品行ひんかうをお慎つしみなさるが當然たうぜんだ

わ。何故なぜつて、あんな結構けつこうな奥おくさまをお持もちになつたから、此世このよにゐらつ

しやるうちから極樂ごくらくへお上のぼりになつたんだもの、だから若もし此世このよでお慎つしみ

にならないと、もう決けつして天てんへお上のぼりなさるとは出來できないでせう。だつ

て、若もしある二人ふたりの神かみさまが天てんで何なにか勝負事しょうぶごとをなすつて、二人ふたりの美人びじんを賭

物ものになすつたとする、さうしてポオシヤさまが一方かたの賭物かけものだとすると、かた

／＼の方ほうへは何か別べつに添そへなけりやならないに違ちがひない、逆さかもこんな粗末そまつ

な人間界にんげんかいには、あの方に負まけないやうな美人びじんはもう他ほかにありやしないもの。

ロレン

丁度ちやうどさういふ結構けつこうな亭主ていしゆをお前まへは持もつてるのだけ、奥おくさんとしてのポオシ

ヤさまの値打ねうちに負まけないやうな亭主ていしゆを。

ジエシ  
いゝえ、それもね、ま、わたしにお聴ききなさいよ。

ロレン  
いづれ承うけたまはりませう。ま、食しょくじ事に往ゆかうよ。

ジエシ  
いゝえ、氣きが向むいてる時に、讚ほめて見みたいわ。

ロレン  
食くひ氣けにも相さう應おうに氣きが向むいてるだらうから、食たべながらが可いいだらう。

食たべながらなら、何なんといはれたつて食物くじものと一ひとしよに吞のみ込んでしまふからね。

ジエシ  
よろしい。棚下たなごろしをするよ。

二人ふたりともに入る。

\* \* \* \* \*

第四幕

第一場 エニス。 法庭。

公爵、重役の豪族等、アントニオ、パッサニオ、グレシヤノ、サラリノ及び  
其他出る。

公爵 アントニオはゐるか？

アント はい、をりまする。

公爵

お前は實に氣の毒なものぢや、お前の敵手方のシャイロックは、岩石の様な頑固な人非人で、慈悲心などは些少も無い奴ぢやからなう。

アント

承はりますれば、いろ／＼お心に掛けさせられて、彼めを段々お諭し下さいましたさうにございますが、あくまでも頑固に申し張りまする以上、正當の方法を以てしては到底彼の悪意をまぬがれがたいことゝ存じますから、私は観念いたしまして、如何やうな苛酷な殘虐な要求にも應じまする覺悟にござりまする。

公爵

誰れか彼方へ往つて、シャイロックを法庭へ呼び入れい。

サラリ

扉口に控へてをりまする。……参りました。

シャイロック 出る。

公爵

そこを開けて彼を予の前に立たせい。……シャイロック、世人もさう思ひ、予もさう思ふが、其方が斯様に頑固に意地わるく申し張るのは、只もう裁判

落着の間際までの事で、いよくとなると打つて變つて、只今までの残忍な仕方が奇怪に思はれたよりも、尙一層奇怪な位の慈悲心を其方が現すであらうと思つてゐる。すなはち今頻りに責促つてゐる此憐れな商人の肉一ポンドの科料を曾に免除するばかりでなく、殊勝にも仁愛の心を起して、元金の大半をも免し遣すであらうと思つてゐる。といふのは、近頃引續いて彼れが身に降りかゝつた種々の損失の爲に、頭をも擡げ得ぬ此大商人の有様を其方とても氣の毒に思ふであらう。たとひ心が鐵や石のやうに頑固で、更に慈悲といふことを知らん土耳其や韃靼の野蠻とても之を憫れまずには居られん筈ぢや。シャイロック、誰も彼も其方のやさしい返答を期待してゐる。

シャイ

手前の決心は先口中上げておきました。是非とも證書面通り科料を受取ると神に誓を立てました。それをならぬとおつしやりますれば、お國に

は法律もなく、自由もないことになりませう。或は御不審もございませう、何故三千兩の金を取らんで、何の役にも立たん人肉一ポンドを欲しがるかと。其お答は致しません。が、かりに、それは手前の奇癖だと申したら、如何でございませう？ 例へば、鼠があばれて困るので、手前が、それを殺してくれる者があれば、一萬兩遣さうと申したといたしたら如何でございませう？ え、お分りになりましたか？ 世間には、口を開いてゐる豚を見れば胸がむかつくの、猫を見りや氣が狂ふのといふ者もあれば、囊笛の音を聞くと堪らなく不快な氣持になつて、小水を催す者もあります。好悪は激しい愛憎の主人で、それが人の氣分を支配して、反感をも同感をも起させます。そこで、お答しますが、丁度、何故口を開いてゐる豚が忍耐が出来んか、何故無害有益な猫や囊笛が堪らなく厭に感せられて、何故恥辱をかいまでも忍耐が出来んかといふ理由が申されないと同じやう

に、見す／＼損と知りながらアントニオに對して斯ういふ訴訟をしますのも、彼に宿怨がありまして、蟲が好かないからでございませう。それ以上の理由は申すことも出来なければ申さうとも思ひません。お解りになりましたか？

バツサ それではお答にはならん、人情の無い男ぢや。お前の残忍な訴訟の申開は、それでは立たんぞ。

シヤイ お前さんの氣に入るやうな申開をする義務は無い。

バツサ 好かんから殺すといふのは人情で無いぞ。

シヤイ 憎いと思ふ位なら殺したいと思ふのが人情です。

バツサ 不快といふ感じと憎いといふ感じとは必しも同一ではない。

シヤイ え？ お前さんは蝮に二度咬ませる氣かね？

アント もしく、どうか、猶人と問答をしてゐるのだとお思ひなさい。彼を説得

することが出来るものなら、海岸に立つて大洋の高浪に退れと命ずることも出来ませうし、狼に何故仔羊を奪つて牝羊を鳴かせたかと詰ることも出来、峯の松共が山風に煽られて騒がしく揺動くのを禁めることも出来ませう、其の他如何な困難な事も出来ませう。世の中に猶人の頑固な心ほど和らげがたいものはありません。ですから、もう何もおつしやらんが可い、何もなさらんが可い、私はむしろ簡明な手續を経て、速かに裁判を受けて、猶人の意志通りにならうと思ひます。

バツサ お前の三千兩に對して、此に六千兩を持參してゐる。

シヤイ 六千兩中の一兩が六つに割れて、其一分宛が一兩であつたからとても、

わしは受取る氣はない。證書通りが望です。

公爵 他人に慈悲を施さんでゐて、若し自身が慈悲を要求する時が參つたら、如何する？



シヤイ 曲つたことをしない者が、裁判を怖る筈はありません。閣下がたのお邸には買収なされた多数の奴隷がをります、それを閣下がたは驢馬や犬のやうに随分こつびどくお使ひなさる、その筈です、お買ひなすつた奴等だからね。若し手前が、閣下さんに、彼奴等を自由にしておやりなさい、姫さんがたのお婿さんになさい、何故あんな酷い仕事をおさせなさる、彼奴等の寢床も閣下がたのと同じ柔かなのにして、何故同じやうに美しい物をお食はせなさらんと申したなら、閣下は「彼奴等は子の所有物だ」とおつしやるでございませう。手前も然うお答します。手前が要求する肉一ポンドは高い價で買取りましたもので、手前の所有物ですから、戴きたいと申すのです。それをならんとおつしやれば、お國には法律は無いても同然です！  
 ゼニス の政令は悉く無効です。是非御裁判を願ひます。如何です、願へますか？

公爵 予が國主たるの權力を以て此法庭を閉ぢても可いのおやが、豫て此訴訟を裁決するため召換しておいたペラリオといふ博學のドクトルが、もう程なくこゝへ參る筈ぢや。

サラリ 御前、あちらに、其博士の書面を持參いたしました使の者が差控へてをります。只今バデューアから著しました。

公爵 其書面をこれへ。使の者も此方へ。

パッサ しつかりなさい、アントニオ！ 決して落膽するには及ばん！ たゞ一滴たりともわたしの爲にお前さんの血を失させる位なら、わたしが此肉も血も骨も何もかも彼猶人にくれてやります。

アント 私しは病に取附かれてゐる弱い羊なのですから、先だつて死ぬのは當り前です。果物でも一番脆い質のが真先に落ちます。私しもさうなのです。パッサニオさん、貴下は後に生残つて私しの爲に墓誌を書いて下さるのが

何よりの務です。

ネリッサ、法律家の書記らしき服装をして出る。

公爵

バデニアのベラリオ博士のお使者ですか。

ネリッサ

さやうでございます。ベラリオの御挨拶でございます。

書状を公爵に渡す。

バッサ

何故お前はさう一生懸命に庖刀を磨いでゐるのぢや。

シヤイ

ここにゐる身代限から科料の肉を切取るためです。

グレシ

おい、猶人、靴の底で磨ぐよりも、貴様の其石のやうな酷薄な心の底で磨いだはうが、すつと鋭くなるだらうせ。併し如何な善く切れる刃物だつても、首切が使ふ斧だつても、貴様の胸で以て磨ぎ上げる邪見の刀刃には叶

やしまい。どんな祈禱も貴様の胸には通じないか？

シヤイ

お前の智慧相應な祈禱では通じない。

グレシ

お、此罰當りの、剛情な犬め！ 貴様のやうな奴を生しておくのは政道の手ぬかりだ。下等動物の靈魂が人間の体内に宿るといふピサゴラスの説も、貴様を見てゐると、どうやら眞實かと思はれさうになる。貴様のその犬のやうな靈魂は、元は狼に宿つてゐたのだ、ところが人間を咬殺した科で絞殺された時に脱出して、貴様の汚はしいお母の胎内に入つて其靈魂の中へ浸込んだのに相違ない。狼のやうな惨酷な無慚な貪婪な根性が其證據だ。

シヤイ

お前が怒鳴つたゝめに、この證書から印形が消えりやあ兎も角もだが、餘り大きな聲を出すと肺の臓が傷むばかりだ。若僧さん、今のうちに繕はないと、智慧袋が酷くなつて爲様がなくなるだらうせ。わしは裁判を俟つてゐるのだ。

公爵

ベラリオからの此書面によると、年の若い博識のドクトルを當法庭へ推薦

するとある。それは何處に居られる?

ネリッサ

すぐ彼方にお許可のお辭を承はるまで、差控へてをられます。

公爵

無論差支はない。だれか三四人あちらへ參つて、丁寧に案内をせい。其

間に、ベラリオからの書面を、一同の者へ讀み聞かせい。

書記

(讀む) 尊翰拜受の際は、吾等重病にて臥床中の儀と思し召されたく候。然る處お使者の來著と同時に、若き博士バルサーと申す者、羅馬より訪問の爲に參り合せ候ふ故、猶人對商人アントニオの訴訟事件は、同人に申し聞け、立會にて多くの書籍に就きて調査を遂げ、自分存し寄を提供いたしたる上、更に博學なる彼をして其足らざるを補はせ置き申し候、同人學識の儀は如何程賞讃致し候ふも猶溢美ならざるを覺え候。すなはち切に相勧め、吾等代理として閣下に拜趨いたさせ候。願はくは其年齢を缺く故を以て閣下の御優遇を缺くが如きこと無からんことを。體若うして

智老いたる彼の如きは吾等の未だ曾て見及ばざりし所に候。御採用あらんには、其實力は更に善く彼を推薦いたし候はんと存じ候。

ボオシヤ 姫法學博士の服装にて出る。

公爵

ベラリオ博士の書面の趣意は其通りぢや。多分あれへ參つたのが其博士であらう。……ようこそ。ベラリオどのからでござるか?

ボオシ

さやうでございます。

公爵

ようこそ。まづお著席なさい。只今審問中の許証の事は御承知でござるか?

ボオシ

くはしく承知いたしてをります。其商人は何れに控へをりますか? 其猶人は?

公爵

アントニオとシャイロック。兩人とも前へ出い。

ボオシ

シャイロックといふのを其方か?

シヤイ シヤイロックは手前でございます。

ボオシ 其方の此度の訴訟は奇怪な訟ぢや、併し手續には何の不都合もないから、  
エニス<sup>ハ</sup>の法律<sup>ハ</sup>の表<sup>ト</sup>として<sup>ハ</sup>其方<sup>ヲ</sup>を非難<sup>ス</sup>することは出来<sup>ル</sup>ん。……(アントニオ  
に) 其方<sup>ノ</sup>の生死<sup>ハ</sup>は原告<sup>ニ</sup>に二任せねばならんのか?

アント はい、さやうに申しをります。

ボオシ 證書<sup>ニ</sup>に對して<sup>ハ</sup>異議<sup>ハ</sup>はないか?

アント ございませぬ。

ボオシ では猶人<sup>ガ</sup>が慈悲<sup>ヲ</sup>を施<sup>ス</sup>さんければならん。

シヤイ ならんとおつしやるのは、どういふ據<sup>ラ</sup>ない理由<sup>ガ</sup>がございますか?

ボオシ 慈悲<sup>ハ</sup>は據<sup>ラ</sup>なく施<sup>ス</sup>べきものではない。慈悲<sup>ハ</sup>は、春<sup>ノ</sup>の小雨<sup>ノ</sup>の自<sup>ラ</sup>からにし  
て地<sup>ヲ</sup>を潤<sup>ス</sup>すが如<sup>ク</sup>に降<sup>ル</sup>ものぢや。其德<sup>澤</sup>は二重<sup>ニ</sup>である。慈悲<sup>ハ</sup>は、之<sup>ヲ</sup>  
與<sup>フ</sup>る者<sup>ニ</sup>に取<sup>ツ</sup>ても幸福<sup>ナ</sup>れば、受<sup>ケ</sup>る者<sup>ニ</sup>に取<sup>ツ</sup>ても幸福<sup>ナ</sup>のぢや。慈

悲<sup>ハ</sup>は最も偉<sup>イ</sup>なる人<sup>ニ</sup>に在<sup>ッ</sup>て更<sup>ニ</sup>に最も偉<sup>イ</sup>なる美德<sup>ト</sup>なる。此德<sup>ガ</sup>が君主<sup>ノ</sup>  
の胸<sup>ニ</sup>に在<sup>レ</sup>ば、其光<sup>ハ</sup>は金<sup>ノ</sup>の冠<sup>ニ</sup>にも幾倍<sup>ス</sup>する。彼<sup>ノ</sup>の國王<sup>ガ</sup>が手<sup>ニ</sup>持<sup>タ</sup>せ  
らるゝ笏<sup>ハ</sup>は、徒<sup>ラ</sup>の俗界<sup>ニ</sup>に於<sup>ケ</sup>る威力<sup>ヤ</sup>尊嚴<sup>ノ</sup>の標章<sup>ト</sup>たるに過ぎ<sup>ナイ</sup>が、慈悲<sup>ハ</sup>  
は目<sup>ニ</sup>に見<sup>エ</sup>ぬ心<sup>ノ</sup>の中に宿<sup>ル</sup>寶<sup>ヲ</sup>で、永世<sup>不</sup>滅<sup>ノ</sup>神<sup>ノ</sup>の徳<sup>ヲ</sup>ぢや。随<sup>ッ</sup>つて、慈悲<sup>ハ</sup>  
を以<sup>ッ</sup>て正義<sup>ヲ</sup>を和<sup>ム</sup>ぐるに及<sup>ン</sup>で政道<sup>ガ</sup>が始<sup>メ</sup>て天道<sup>ニ</sup>に合<sup>フ</sup>のである、人間<sup>ノ</sup>  
力<sup>ガ</sup>が其時<sup>ハ</sup>はじめて神<sup>ノ</sup>の力<sup>ニ</sup>に似<sup>ル</sup>るのである。だから、猶人<sup>よ</sup>、お前は頻<sup>リ</sup>  
に正義<sup>ト</sup>といふことを主張<sup>ス</sup>るが、正義<sup>バ</sup>かりで以<sup>ッ</sup>て裁判<sup>シ</sup>たなら、吾々<sup>共</sup>  
の中<sup>ニ</sup>、只<sup>一</sup>の一人<sup>ト</sup>として救拯<sup>ヲ</sup>を得<sup>ル</sup>ものはあるまい。お互<sup>ニ</sup>に且暮<sup>神</sup>に慈  
悲<sup>ヲ</sup>を祈<sup>ル</sup>、其心<sup>ヲ</sup>を推<sup>シ</sup>及<sup>ボ</sup>して他人<sup>ニ</sup>に慈悲<sup>ヲ</sup>を施<sup>ス</sup>のが人情<sup>ト</sup>といふものぢ  
や。かやうに言葉<sup>ヲ</sup>を費<sup>ス</sup>すは、其方<sup>ノ</sup>、正義<sup>一</sup>邊<sup>ノ</sup>の申立<sup>ヲ</sup>を緩和<sup>メ</sup>ようが爲<sup>ニ</sup>  
ある、それをお前<sup>ガ</sup>が強<sup>ヒ</sup>て申し張<sup>レ</sup>ば、エニス<sup>ノ</sup>の嚴格<sup>ナ</sup>な法庭<sup>ハ</sup>は、據<sup>ラ</sup>なく  
そこ<sup>ニ</sup>にゐる商人<sup>ニ</sup>に宣告<sup>ヲ</sup>を下<sup>サ</sup>んければならん。